

令和3年度  
事業報告書

社会福祉法人 聖母会  
横浜市原宿地域ケアプラザ

# 社会福祉法人 聖母会

## 基本理念と基本方針

「愛と真理に基づき最も困っている人々に手を差し伸べる」

援助を必要としている人々すべてに福祉活動を行ってきた創立の精神を保持し、時代の変革の中で社会のニーズに応じてその使命を果たす。

1. 利用者本人を尊重し、個々のあるべき人生の支援に努める。
2. 地域関係機関と連携し、地域福祉の向上に努める。
3. 法人の理念に基づき、質の高い職員を育成する。

聖母会理事長 塩塚 俊子

# 目次

令和3年度年間大目標の振り返り	1
地域の現状と今後の方向性、施設の適正な運営について	3
全事業共通	3
地域包括支援センター事業	9
居宅介護支援事業、通所介護事業	13
第1号通所事業	15

# 別表目次

別表1 月間目標と反省	18
別表2 防災訓練実施結果	30
別表3 研修参加者一覧	31
別表4 自主事業報告（地域交流・地域包括・生活支援）	36
別表5 地域包括支援センター相談受付件数（推移）	46
別表6 介護予防支援、介護予防ケアマネジメント実績	47
別表7 居宅介護支援事業所実績	48
別表8 通所介護事業・横浜市通所介護相当サービス事業実績	49
別表9 令和3年度決算書類（受託施設）（介護保険施設）	51

## 令和3年度 横浜市原宿地域ケアプラザ振り返り

### [地域交流]

- ・コロナウイルス感染症拡大により「地域住民の交流の場」が少なくなってきたが、昨年後半には徐々にではあるが地域活動が再開し始めてきています。昨年は全10回のスマホ教室や、ICTを活用した会議などを実施することにより、地域住民の繋がり作りや情報の格差を少なくしていけるよう取り組みを行いました。引き続き、町内会・自治会、各種福祉団体、子育て支援団体等とも情報共有を図りながら、地域福祉の向上を図ります。
- ・コロナ禍により外に出る機会が減り、子どもの体力低下が危惧されています。子育て世代の方たちが安心して外に出られるように、地域の子育て支援団体等と連携しながら、来年度の完成を目指し「お散歩マップ」を作成しています。引き続き子育て支援拠点（団体）や関係機関とも連携を取りながら、「お散歩マップ」の周知を行うことにより、地域に暮らす誰もが孤立することがないように支援を行っていきます。

### [地域包括支援センター]

- ・昨年に引き続きコロナ禍の状況ではありましたが、感染予防対策を取りながら、一般高齢者への介護予防普及啓発と、住民通いの場の強化・推進のための継続支援を行いました。
- ・介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務では、高齢者が住み慣れた場所でその人らしく、自立した生活が継続できるよう、本人の意思を尊重し、その意向がかなえられるようなケアプランの立案をするとともに、関係機関との連携に努めました。
- ・新型コロナウイルス感染予防のため、地域住民を対象とした講演会（エンディングノートや成年後見制度の周知）は開催できませんでしたが、成年後見制度の申立て支援（親族申立人不在の場合の区長申立てを含む）、司法書士を講師に招き介護者の会での講習会開催など独居高齢者、認知症高齢者や様々な課題を抱えている高齢者とその家族介護者に対し、必要と思われる制度や相談先の情報提供を行いました。
- ・新型コロナウイルス感染予防のため、住民団体の皆様や各関係機関との活動・協働の場の参加に制限がありましたが、電話やメール等を活用して、包括的・継続的ケアマネジメント業務が円滑に行われるよう、医療・福祉・介護、各関係機関等と必要な情報や課題が共有できるよう努めました。

### [生活支援体制整備]

- ・地域資源の把握・整理・充実化、適切な情報発信に努めたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動の多くが規模の縮小や中止となりました。昨年後半には一部の地域活動再開に伴い、感染予防・拡大防止対策等の情報提供を行いながら、地域活動の維持継続に努めました。
- ・新型コロナウイルス感染症により、町内会自治会、民生委員・児童委員協議会、地区社協、老人クラブ、施設等と連携する機会が減りましたが、メールや電話、感染症対策を実施しての訪問等、工夫しながら関係性の維持に努め、再開された地域活動や協議体等を通して新たな地域課題の把握や解決に向けた取り組み、支援を行いました。

### [通所介護・総合事業（横浜市通所介護相当サービス）・認知症対応型]

- ・要支援者・要介護者のご利用者が、住み慣れた地域、在宅において、安全に暮らしているよう、在宅生活の継続に資する活動を年間で継続して取り組みました。また、日々

の在宅生活がより充実したものとなるよう、個人の趣向も汲み取り支援を行いました。

- ・新型コロナウイルス感染症対策の為、ボランティア活動の受け入れや、近隣の小学校や中学校との交流授業は行えず、次年度以降再開に向けて取り組んでいきます。
- ・地域住民や関係機関との連携を図り、地域貢献、地域福祉の向上に努めました。

#### [居宅介護支援]

- ・令和3年度介護保険法改正について理解を深めるためコロナ禍でもWEB研修参加を積極的に実施し、改正後の最新情報を学び、ルールに適切に対応するよう努めました。
- ・一人ひとりが経営状況を把握して黒字化に努めました。
- ・利用者の意向に沿ったケアプランを立案し、ケアマネジメントの実施については、利用者アンケートでの回答では、おおむね達成できたと思われた。
- ・地域包括支援センター等と密に連携することで経済搾取問題、依存症問題などといった支援困難ケースへのケアマネジメントを実施しました。

# 令和3年度 事業報告

## 地域の現状と今後の方向性

今年度も前年に引き続き、コロナウイルスの感染拡大により活動が縮小されていたが、徐々にではあるが、新しい生活様式にあわせた地域づくりが構築されつつある。令和3年度は高齢者向けに、デジタルでバイトの解消と情報リテラシーを高める事を目的としたスマホ教室の開催や、子育て世代向けにも、ICT（オンライン）を活用しての講座などを行った。引き続き、町内会・自治会、各種団体と連携し支援を行っていく。

ケアプラザでの年間相談件数の推移をみると、利用者本人・家族からの相談件数は前年度に引き続き減少傾向が続いている。しかし、その前年比減少率は昨年度ほどの大幅減少とはならず、コロナウイルス感染への不安が払拭されない状況下ではあるものの、減少傾向に歯止めがかかっているように思われる。相談内容については、介護保険や認知症、日常生活課題に関するものが前年より増加に転じた。今年度も地域住民に対する自主事業（周知・啓発）は自粛せざるを得ない状況下の中で、民生委員や関係機関からの相談やアドバイスで、利用者の相談につながるケースは増えつつあることから、今後も普段からの連携が重要だと思われる。

## 施設の適正な運営について

### ■公正・中立性の確保について

- ① 居宅介護支援事業所でケアプランを作成する際及び地域包括支援センターから予防プラン・介護予防ケアマネジメントを委託する際、「ハートページ」「戸塚区内居宅支援事業者ケアプラン対応可能件数一覧表」を活用し、特定の事業所に偏らないように努めた。
- ② 自主事業や貸館の申し込み等は、横浜市地域ケアプラザ施設利用マニュアルに準拠した社内ルールを設け、公正・中立に行うように努めた。また、自主事業や貸館の申込方法については、広報紙などを活用し地域住民への周知も行った。

### ■コンプライアンスへの対応について（事故防止、個人情報保護等）

- ① 職場研修において、倫理・サービスや個人情報保護等の研修を実施。
- ② 各部署会議や全体会議等で事故について対策も含め状況報告をし、職場全体で事故防止に取り組む姿勢をもつようにした。

## 全事業共通

### ■相談・支援

#### 【目標】

地域の身近な相談者として、高齢者、子ども、障害児・者、生活困窮者等の対象を問わず、本人又はその家族等の相談を受けとめるとともに、適切な支援、もしくは関係機関等につなげることができている。

【目標】：横浜市健康福祉局が設定したものになります。  
(地域ケアプラザ事業実績評価マニュアルより)

### 《必要な情報の提供》

#### (具体的な取組内容)

広報紙の発行及びホームページの更新を年6回行っていく。また、コロナ禍により回覧板が中止になったこともあり SNS (Facebook、Twitter) 等も活用し情報発信を行っていく。

#### (振り返り)

- ・広報紙は年6回発行し、ホームページの更新も適宜行うことができた。
- ・また一人でも多くの方に情報が伝わるよう、SNS (Twitter、Facebook) のみならず、QR コードなども活用し、また町内の広報紙「こすずめ便り」にも定期的に情報発信を行った。しかし、地域のニーズとして、紙媒体での希望も多い為、情報発信の方法についても改めて検討していく必要がある。

### 《総合的な支援》

#### (具体的な取組内容)

Ayamu 等で地域資源を整理・更新し、地域情報については月1回の事務所会議にて共有していく。

#### (振り返り)

Ayamu の情報は更新・整理している。定期的に行われる5職種会議にて地域情報を共有している。新型コロナの影響でインフォーマルサービスの活動が停止し、多くの人にその人らしさを発揮できるサービスの情報提供ができなかった事が課題として残った。

## ■地域アセスメント

### 【目標】

地域ケアプラザで行う全ての取組を通じて、「地域の情報(基礎情報・社会資源)」と「課題(個別・地域)」を継続的に把握・分析し、地域ケアプラザ内や関係する専門職、地域住民等でそれらの情報を共有することができている。

### 《「地域の基礎情報」の把握》

#### (具体的な取組内容)

- ・5職種会議で地域活動報告やアセスメントシートの更新を町別に原則毎月開催し、情報共有を行っていく。
- ・「地域の定量的データ」の更新を年1回行っていく。地域活動等の参加を通して地域情報の発信に努めていく。

#### (振り返り)

- ・5職種会議の場で地域活動報告を行いアセスメントシートを更新している。最新の地域データを利用し既存の情報を更新している。
- ・地域活動(町内の定例会等)にも積極的に参加することで、地域のニーズを把握し、また地域へ適切な情報が提供できるよう努めた。次年度以降も引き続き取り組みを行っていく必要がある。

### 《「地域の情報」と「ニーズ」の共有》

#### (具体的な取組内容)

「配食マップ」(昨年度作成)や「紙芝居」(令和元年度作成)を活用しケアプラザの周知を幅広い世代に向けて行っていく。また、ICTを活用した事業を行い、地域ニーズ(情報)の把握に努めていく。

(振り返り)

- ・昨年度作成した配食マップを各団体へ配布し、今年度は以前作成したお買い物マップの更新を行うことが出来た。
- ・今年度高齢者向けに全10回のスマホ教室をリビングラボと連携し開催。また、小学校等へも紙芝居を活用することにより、幅広い世代にケアプラザの役割について周知することが出来た。引き続き地域のニーズ(情報)の把握に努めていく。

## ■住民主体の地域づくりの推進体制の構築

### 【目標】

地域の情報やニーズから地域支援方針及び地域支援計画を決定し、地域住民に地域ケアプラザ、区役所、区社協等の専門職が寄り添いながら、一体となって地域づくりを行う体制が構築されている。

《目指す地域像の一致》

(具体的な取組内容)

コロナ禍の為、連合単位での周知活動以外に、町内で実施されている活動で、第4期ハートプランの周知を行っていくことにより、地域住民と目指す地域像を明確にしていく。

(振り返り)

コロナ禍ではあるが、町内会等で実施している活動(食品配布会、地元企業のイベントなど)に積極的に参加し、第4期ハートプランの周知活動を行うことが出来た。引き続き地域住民へ周知活動を行い、地域住民の目指す地域像が明確になるように努めていく。

《課題解決に向けた働きかけ》

(具体的な取組内容)

協議体等を活用し、地域活動団体、町内会、施設等と連携し、課題解決に向けて、サービスB補助事業等を行っていく。

(振り返り)

協議体の場を設け地域の活動団体、町内会や学校、医療法人、民生委員等の協力も経てサービスB補助事業を検討している団体に支援を行った。コロナ禍の為、地域の会合等に参加する事も難しかった為、住民主体の支援や活動の場の創出が思う様にできなかった。引き続き地域の情報やニーズを把握する為にも地域連携、町内会・自治会等の定例会などへ参加していく。

## ■社会資源の開拓・開発・支援

### 【目標】

地域アセスメント等を通じて把握される「地域課題」に基づき、必要となる社会資源が創出・継続・発展されている。



## 《新たな取組の創出》

### (具体的な取組内容)

- ①区と協働し、元気づくりステーションの活動継続ができるよう担い手の方々の支援を行っていくと共に、新たな参加者獲得のための周知を行っていく。  
新型コロナウイルス感染症流行により、休止と活動を繰り返す介護予防活動グループに対しては、会の意向を確認しながら活動再開への支援を行っていく。
- ②区と協働し、元気づくりステーションの活動継続ができるよう担い手の方々の支援を行っていくと共に、新たな参加者獲得のための周知を行っていく。  
新型コロナウイルス感染症流行により、休止と活動を繰り返す介護予防活動グループに対しては、会の意向を確認しながら活動再開への支援を行っていく。

### (振り返り)

- ①コロナ禍の為、活動できる機会が少ない中、近隣小学校4年生を対象に紙芝居を使用し、ケアプラザの役割について授業を行った。引き続き幅広い世代に向けてケアプラザの役割について、周知することができるよう、活動を行っていく必要がある。
- ②区と協働し、地域に2カ所ある元気づくりステーションの活動が継続できるよう支援は行えている。コロナ禍でもあり、新たな参加者獲得のための周知は積極的には行えていないが、町内会だよりに開催予定を掲載しており、新たな参加者が数名増えた。引き続き次年度以降も継続支援を行っていく必要がある。

## 《担い手の発掘・育成》

### (具体的な取組内容)

- ①活動を中止している団体に対し、アンケート等を実施し参加者の意向を確認しながら、方向性を整理していく支援を行っていく。
- ②NPOや地元企業等と連携し、活動団体の趣旨を尊重しながら必要に応じた情報提供や後方支援を行っていく。

### (振り返り)

- ①新型コロナウイルスの影響で活動を中止していた団体にアンケートを実施し、緊急事態宣言解除後には活動再開に繋げる事が出来たが、新たな担い手の発掘の場であるボランティア養成講座の開催は出来ず、担い手の育成支援ができなかった。引き続き感染状況を見ながら地域活動の継続支援に向けて取り組む必要がある。
- ②地域企業等の協力の輪を広げる事が難しく後方支援や情報提供も不十分であった為、関係性構築等にも課題が残った。今後の連携のあり方について考えていく必要がある。

## ■ネットワークの構築・支援

### 【目標】

個別課題や地域課題の解決に向けて、住民、専門職、関係機関を含む多様な関係者（個人、組織及び団体）が、必要な情報や各々が抱える問題・課題等を、互いに円滑に共有することができるネットワークが構築されている。

## 《地域活動を行う地域住民等のネットワークの構築》

(具体的な取組内容)

繋がりが少ない地域、活動が縮小されている団体への支援と課題の整理を行っていく。また、コロナ禍における課題解決の為に、新たなネットワークの構築を行い、横への繋がりを広げていく。

(振り返り)

- ・コロナ禍において、活動が縮小されている団体への支援を行い徐々にではあるが、活動再開に向けて進み始めている。
- ・コロナ禍における課題解決に向けて、ICTなどを活用したり、自主事業で企業やNPOとの連携等、今まで繋がりが少なかった地域や企業等とのネットワーク構築を新たに行うことができています。

## 《地域住民等と専門職等とのネットワークの構築》

(具体的な取組内容)

地域活動から見えてきたコロナ禍における課題解決に向けて、地域と専門職、学校等が情報共有・連携し、新たな居場所や交流・活動の場の創出（再開）を行っていく。また、ICT等を活用し施設職員の継続した参加を促していく。

(振り返り)

- ・コロナ禍において、集合形式での情報共有等が難しい為、ICT等を活用し地域課題の把握や連携を深めることにつなげる事ができた。
- ・徐々にではあるが、地域活動も再開しつつある為、引き続き関係機関と連携し、活動の場の創出（再開）や地域課題の解決に向けた支援を行っていく。

## ■地域ケアプラザの場を生かした支援

### 【目標】

子どもや高齢者、障害者等、地域に暮らすすべての人たちが、孤立することなく地域の一員として、自分らしく支え合って暮らせるよう、地域ケアプラザの「場」を生かしながら、地域課題の解決に寄与することができている。

## 《自主事業の実施》

(具体的な取組内容)

介護予防体操等の立ち上げの支援や、既存の自主化している団体の継続支援を行っていく。

(振り返り)

- ・参加者の減少している活動グループに対し講座を開催した。終了後、継続希望者の会への吸い上げを行うことができた。
- ・介護予防普及啓発事業でノルディックウォーキング講座を開催した。終了後、新規の活動グループの立ち上げを行った。
- ・今後も同様の活動の縮小する団体が増える事が予測されるため、引き続き活動団体への継続支援を行っていく。

《福祉・保健活動団体等が活動する場の提供》

(具体的な取組内容)

ICT を活用した地域貢献活動等につなげる事ができるように、利用者・利用団体等へ働きかけを行っていく。

(振り返り)

- ・今年度全 10 回のスマホ教室をリビングラボと連携しての開催や、ケアプラザの自主事業等を ZOOM を併用して活用することで情報発信をすることが出来た。一人でも多くの方が ICT を活用できるようになることで、情報の格差を少なくしていけるよう、引き続き利用者・利用団体等へ働きかけを行っていく。

## ■職員体制・育成

【目標】

全事業共通及び地域包括支援センター事業、介護保険事業の目標の達成に向けて、必要な資質を備えた職員が適切に育成・配置されており、必要に応じて職員間の十分な連携が行われている。

《日常業務を通じた人材育成》

(具体的な取組内容)

各職種で、定期的に連絡会や会議を開催することにより、職員一人一人のスキルアップに努めていく。また、全体での情報共有については、7 職種やケアプラザ全体会議にて行っていく。

(振り返り)

- ・ケアプラザ間の連携を行うために、深谷俣野地域ケアプラザのコーディネーターと定期的に連絡会を実施し、お買い物マップの更新や、配食マップの周知等行うことが出来た。
- ・毎月サブコー会議や包括ミーティング等を行うことにより、部署間での情報共有に務めた。
- ・毎月 7 職種会議を実施し各職種が連携し、それぞれの視点からみた地域情報の共有を行うことが出来た。今後も地域の課題についてケアプラザ全部署で捉えることができるように業務に取り組んでいく。

## ■区行政との協働

【目標】

地域ケアプラザと区役所が、必要な情報や各々が抱える問題・課題等を、互いに円滑に共有し、個別課題や地域課題の解決に向けて、効果的な役割分担のもと、協働して取り組むことができている。

《地域ケアプラザと区役所の良好な関係性の構築》

(具体的な取組内容)

地域ケアプラザと区役所がお互いに協力し合いながら、新たなサービスの創出と既存の活動団体への継続支援を行っていく。(継続)

(振り返り)

区役所と地域ケアプラザが日常的に連携し個別ケースの対応や自主事業(脳を鍛えるウォーキング講座、子育て連絡会など)、新たなサービスの創出(ちえのわのサービス B)、ハートプランの推進等、

役割の確認や進捗状況を報告しながら支援を行っている。

#### 《地域福祉保健計画の推進》

(具体的な取組内容)

区役所関連事業（介護予防事業や子育て支援事業等）、町内会単位で行われている活動から、ケアプラザ圏域で行われる活動（催し）を含め、より多くの地域住民（連合未加入も含む）に第4期計画を知っていただけるように、周知活動を行っていく。

(振り返り)

- ・コロナ禍ではあるが、区役所間連携事業（脳を鍛えるウォーキング講座、子育て連絡会等）や町内会で行われている定例会、企業で実施しているイベント（幸和建設工業）などに参加し、第4期計画について周知活動を行った。
- ・引き続きより多くの地域住民にハートプランを知っていただけるように周知活動を行っていく。

## 地域包括支援センター事業

### ■認知症支援事業

#### 【目標】

認知症の人がその意思を尊重され、できる限り住み慣れたよい環境の中で暮らし続けることができる。

#### 《認知症の正しい理解の促進》

(具体的な取組内容)

地域住民に対し認知症の正しい理解を目的とした講座や勉強会を開催していく。

協力医による住民向け講座を10月に開催予定。

(振り返り)

地域住民の認知症に対する正しい理解と対応ができるよう、協力医による認知症の住民向け講座を10月に開催した。

#### 《早期発見・対応》

(具体的な取組内容)

ケアプラザが認知症が疑われる高齢者に関する相談場所として、また気がかりな高齢者の情報提供の場として開かれていることの周知を行う。

(振り返り)

5職種で連携し地域へ働きかけを行ったことにより、ケアプラザが高齢者に関する相談場所として地域住民に認知されつつある。

今年度は、認知症が疑われる高齢者で医療に繋がっていないケースを認知症初期集中支援チームと協働し、医療・介護保険サービスに繋げることができた。

今後も認知症が疑われる高齢者の情報提供を地域住民に働きかけていくことが求められる。

《認知症の人と家族が安心して過ごせる地域づくり》

(具体的な取組内容)

継続した集いの場の開催が困難な中、開催している集いの場には生活支援体制事業や地域活動交流事業、地域包括支援センターと連携し、住民がどこでも相談できる場を作ることで側面からの支援を行う。

(振り返り)

地域で行っている活動に5職種が参加し、地域の方々と同じ時間を共有し関係性を築くことで、住民がどこでも相談できる環境(機会)を整えた。

## ■権利擁護業務

【目標】

- ①高齢者虐待の未然防止や早期発見および適切な対応を実現することができている。
- ②認知症等により自己の判断のみでは意思決定に支障のある高齢者等の権利や財産が守られている。

《高齢者虐待の未然防止及び成年後見制度の利用促進》

(具体的な取組内容)

・介護保険サービス事業所や医療機関との日常のかかわりから、高齢者虐待の相談しやすい環境を作っていく。また、親族(介護者)による虐待を未然に防ぐための一つの方法として、サービス導入による介護負担の軽減や、「介護者の集い」への参加を呼びかける。

・住民向け講座の開催を昨年同様行っていく。

(エンディングノート・成年後見制度の住民向け講座の開催を年度の後半に予定している。)

(振り返り)

・虐待をして苦しむ長女からの訴えをうけ介護サービスにつなげ、ケアマネジャーや相談員との関りの中で、長女の想いを聞くことが出来ている。

・コロナ禍のため住民向け講座の開催はできなかった。介護者の集い(よつばの会)では少人数で司法書士を講師に招き家族信託、成年後見制度について講習会を開催した。

認知症になる前の本人の意向がより実現できる家族信託の利点について周知することができた。

《早期発見・適切な対応》

(具体的な取組内容)

本人が認知症を発症していると問題が重篤化することが多いため、そのような高齢者への継続的な支援として、成年後見制度の利用を促す働きかけを関係機関や地域住民に対し行っていく。

(振り返り)

認知症独居高齢者が徘徊したケースでは、藤沢警察の協力のもと小規模多機能事業者に依頼し、本人の身の安全を確保、その後医療機関、区役所とも連携し、成年後見制度の申立て支援を行った。

## ■包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

### 【目標】

ケアマネジャーと地域をつなぐための支援を行い、ケアマネジャーが、高齢者の生活全体を丸ごと（包括的）、どのような状態になっても切れ目なく（継続的）支えることができるケアマネジメントを実践することができている。

#### 《ケアマネジャーが抱える課題や支援ニーズの把握》

（具体的な取組内容）

- ①居宅介護支援事業所訪問を継続的に行う。コロナウイルス感染予防のため訪問できない時期は電話やメール等を活用する。
- ②ケアマネジャーが共通に抱える課題の解決に向けた、関係機関との連絡・調整などの必要な支援や研修会を実施する。

（振り返り）

- ・居宅介護支援事業所の訪問はコロナウイルス感染予防のため実施できない時期もあったが、電話を活用してケアマネジャーと連絡を取り合い、抱える課題等を共有し、地域のケアマネジャーと良好な関係を築くことができた。
- ・課題解決に向け居宅介護支援事業所連絡会で研修会を開催し、資質向上の支援を行うことができた。

#### 《関係者とのネットワークの構築》

（具体的な取組内容）

- ①ケアマネジャーと、地域のインフォーマルサービス組織や関係者等が顔合わせ・情報交換等が出来る場を確保する。
- ②各種連絡会に参加しにくい環境にある小規模事業所に対する、適切な情報提供を行う。

（振り返り）

- ・コロナウイルス感染予防対策を行い、居宅介護支援事業所連絡会・研修会を生活支援交流会と合同で開催し、地域のインフォーマルサービス（コミュニティーサロン情報・サービスB補助事業等）の情報提供、情報共有することができた。
- ・小規模事業所（1人ケアマネ）には各研修等の情報提供を行った。

#### 《ケアマネジャーについての地域の理解の促進》

（具体的な取組内容）

地域住民や関係者等との意見交換等の場における、介護保険制度やインフォーマルサービス、ケアマネジャーの役割、介護予防に関する普及啓発を実施する。

（振り返り）

- ・2月に企画していたケアマネジャーと民生委員との合同研修会はコロナウイルス感染予防のため中止となったため来年度も同内容の研修を企画している。来年度は一般住民向けにも普及周知が行える場を設ける工夫をしたい。

## ■在宅医療・介護連携推進事業

### 【目標】

個別課題や地域課題の解決に向けて、医療機関と介護事業所等（個人、組織及び団体）が、その日常の中で、必要な情報や各々が抱える問題・課題等を、互いに円滑に共有し、一体的な支援・サービスを行うことができるネットワーク・連携体制が構築されている。

### 《医療や介護の関係者と連携したケアマネジメントの実践》

（具体的な取組内容）

区役所、区内包括、ケアマネット、ほーめっと、在宅医療相談室、三師会と協力し、ケアマネジャーの医療知識の向上や医療や介護をはじめとした多職種の見聞交換する場としての研修を実施する。（振り返り）

- ・区11包括主任ケアマネジャー連絡会主催で、医療連携研修を行い「在宅での看取り」に対する知識を学び、見聞交換する場を設ける事ができた。
- ・エリアの事業所に所属するケアマネジャーに、戸塚区在宅医療相談室事例検討会、ケアマネット、ほーめっとの研修会参加を呼びかけた。ケアマネットの研修はコロナ感染予防のため今年度の研修は全て中止となった。

## ■指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業（介護予防ケアマネジメント）

### 【目標】

心身機能の改善だけでなく、地域の中で生きがいや役割をもって生活できるよう、「心身機能」「活動」「参加」にバランスよくアプローチするケアマネジメントができています。

「高齢者が要介護状態になることをできるだけ防ぐ（遅らせる）」「要支援状態になってもその悪化をできる限り防ぐ」ために、高齢者自身が地域において自立した日常生活を送ることができるような、ケアマネジメントが実践できている。

### 《幅広い選択肢からの利用サービスの選択》

（具体的な取組内容）

生活支援コーディネーターや地域交流コーディネーターと連携して地域の社会資源情報を収集し、委託先のケアマネジャーや利用者に情報提供し、インフォーマルを含めた幅広い選択肢を持ってもらう。（振り返り）

生活支援コーディネーターや地域交流コーディネーターと連携しながら、地域のインフォーマルリストの作成や地域情報の資料等を収集し、ケアマネジャーが利用者に情報提供できるよう準備を行っている。また、エリアのケアマネジャー連絡会を開催し、言語聴覚士による訪問リハビリについての研修会や、地域のインフォーマル事業所の紹介を行った。

### 《居宅介護支援事業所委託時の関与・支援》

（具体的な取組内容）

委託の場合の初回の介護予防ケアマネジメント実施時においては可能な限り立ち合いを行う。

委託後もサービス担当者会議、モニタリング・評価に関わり居宅介護支援事業所と共に、状態の把握

に努める。

(振り返り)

特に新規の委託ケースでは、契約時や担当者会議の場に同席し、利用者本人の状態把握に努めた。サービス導入後も委託先ケアマネジャーの要請により、必要に応じ包括での介入も行った。

《適切なアセスメント及び自立支援に資するケアプラン作成》

(具体的な取組内容)

介護保険制度の理解だけでなく、利用者本人と家族が介護予防に積極的に取り組む意欲を引き出せるよう、本人及び家族との信頼関係の構築に努める。

(振り返り)

介護保険サービス利用開始時には可能な限り同行訪問し、利用者本人及び家族のエンパワーメントの部分を確認しながら関係性の構築に努めた。

●利用者実績（延べ人数） 単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月
245	251	244	245	239	231
10月	11月	12月	1月	2月	3月
232	227	226	239	227	223

## ■地域ケア会議

【目標】

適切な支援に繋がっていない高齢者に対して、公的サービス、社会資源を活用し、自立に資するケアマネジメントが地域で行われている。

また、具体的な地域課題やニーズを吸い上げ、資源開発や地域づくりにつなげている。

《個別課題の解決》

(具体的な取組内容)

ケース選定前に会議の日程を決めず、問題ケースが生じた際、迅速に専門職種を交えた個別ケースケア会議を開催し問題解決にあたる。

(振り返り)

新型コロナウイルスの影響のため、地域ケア会議の開催を行う事が困難であったが、今後も即時開催できるように検討を行っていく必要がある。

## 居宅介護支援事業

【目標に対する取り組み状況】

・法改正に対応をして、コロナ禍においても、地域ニーズに対応することで、黒字化されました。



- ・地域包括支援センター等と連携し、支援困難ケースの支援体制が構築されました。
- ・利用者の意向に沿ったケアプランの立案する対人援助支援者として、寄り添うこと大切さや自己覚知について、ご意見をいただきました。今後も継続して学び、専門性を高めていきます。

●職員体制

居宅介護支援事業所管理者1名（常勤兼務）

主任介護支援専門員1名（常勤専従）

介護支援専門員3名（うち常勤兼務1名、常勤専従2名）

●利用者実績（単位：人）※（ ）内は介護予防プラン・介護予防ケアマネジメント受託件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月
95（16）	98（17）	100（14）	96（16）	96（16）	103（14）
10月	11月	12月	1月	2月	3月
102（18）	111（16）	113（12）	109（13）	104（11）	109（11）

## 通所介護事業

【目標に対する取り組み状況】

ご利用者が住み慣れた地域、在宅において安全に暮らしていけるよう、年間を通して新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を実施し、在宅生活の継続に資する活動に取り組むことができた。

●実施日数 週6日（12/29～1/3、日曜日を除く）

●提供時間 9：25～16：25

●定員 40名

●実費負担

・1割負担分

（要介護1） 703円

（要介護2） 829円

（要介護3） 961円

（要介護4） 1,092円

（要介護5） 1,225円

・食費負担 800円

・入浴加算（Ⅰ） 43円/回

・サービス提供体制強化加算

（Ⅱ） 20円/回：介護職員総数のうち、介護福祉士割合が50%以上

・同一建物居住者の送迎についての減算 △101円/日

・送迎減算（片道） △51円/回

・中重度者ケア体制加算 49円/回

- ・認知症加算 65円/回
- ・科学的介護推進体制加算 43円/月
- ・介護職員処遇改善加算（Ⅰ）  
1ヶ月の総単位数に5.9%を乗じた単位数(利用者毎に異なる)
- ・介護職員等特定処遇改善加算（Ⅰ）  
1ヶ月の総単位数に1.2%を乗じた単位数(利用者毎に異なる)

### ●職員体制

通所介護事業・第1号通所事業（横浜市通所介護相当サービス）※職員は兼務

管理者	1名	（常勤兼務）
生活相談員	6名	（常勤兼務1名 常勤介護職兼務5名）
看護職員	5名	（非常勤兼務・機能訓練指導員兼務）
介護職員	16名	（常勤兼務6名 うち生活相談員兼務5名 非常勤兼務10名）
調理職員	5名	（常勤1名・非常勤4名）
運転手	1名	（非常勤）

### ●利用者実績（延べ人数） 単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月
748	814	808	784	750	761
10月	11月	12月	1月	2月	3月
745	755	668	609	589	682

## 第1号通所事業

### 【目標に対する取り組み状況】

自宅での生活がより充実・自立したものとなるように選択レクリエーションや運動プログラムを行った。新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を実施し、生活機能維持に向けた取り組み（洗濯等）を行った。

- 実施日数 週6日（12/29～1/3、日曜日を除く）
- 提供時間 10:30～15:00
- 定員 40名
- 実費負担
  - ・1割負担分
    - （要支援1） 1,793円
    - （要支援2・週1回程度） 1,793円
    - （要支援2・週2回程度） 3,675円
  - ・食費負担 800円

- ・サービス提供体制強化加算(Ⅱ)  
介護職員総数のうち、介護福祉士割合が50%以上  
要支援1：95円/月 要支援2(週1回程度利用)：95円/月  
要支援2(週2回程度利用)：189円/月
- ・同一建物居住者の送迎についての減算  
要支援1：△403円/月 要支援2(週1回程度利用)：△403円/月  
要支援2(週2回程度利用)：△807円/月
- ・介護職員処遇改善加算(Ⅰ)  
1ヶ月の総単位数に5.9%を乗じた単位数(利用者毎に異なる)
- ・介護職員等特定処遇改善加算(Ⅰ)  
1ヶ月の総単位数に1.2%を乗じた単位数(利用者毎に異なる)

### ●職員体制

通所介護事業・第1号通所事業(横浜市通所介護相当サービス) ※職員は兼務

管理者	1名	(常勤兼務)
生活相談員	6名	(常勤兼務1名 常勤介護職兼務5名)
看護職員	5名	(非常勤兼務・機能訓練指導員兼務)
介護職員	16名	(常勤兼務6名 うち生活相談員兼務5名 非常勤兼務10名)
調理職員	5名	(常勤1名・非常勤4名)
運転手	1名	(非常勤)

### ●利用者実績(延べ人数) 単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月
94	106	106	102	96	84
10月	11月	12月	1月	2月	3月
85	88	71	62	59	67

## 認知症対応型通所介護事業

### 【目標】

令和3年6月より認知症対応型通所介護を開設し、適切なプログラムの提供と安全、安心して過ごせる環境づくりに努めた。役割を持つことによって認知症の進行を緩和し、生活機能を維持向上し、住み慣れた地域、在宅での生活を可能な限り継続できるように支援した。

- 実施日数 週2日(12/29～1/3を除く)
- 提供時間 9:25～16:25

●定員 8名

●実費負担

・1割負担分

(要介護1) 1,080円

(要介護2) 1,197円

(要介護3) 1,315円

(要介護4) 1,432円

(要介護5) 1,550円

・食費負担 800円

・入浴加算(I) 44円/回

・サービス提供体制強化加算

(II) 20円/回:介護職員総数のうち、介護福祉士割合が50%以上

・同一建物居住者の送迎についての減算 △103円/日

・送迎減算(片道) △52円

・科学的介護推進体制加算 44円/月

・介護職員処遇改善加算(I)

1ヶ月の総単位数に10.4%を乗じた単位数(利用者毎に異なる)

・介護職員等特定処遇改善加算(I)

1ヶ月の総単位数に3.1%を乗じた単位数(利用者毎に異なる)

●職員体制

認知症対応型通所介護事業 ※職員は兼務

管理者 1名 (常勤兼務)

生活相談員 6名 (常勤兼務1名 常勤介護職兼務5名)

看護職員 5名 (非常勤兼務・機能訓練指導員兼務)

介護職員 16名 (常勤兼務6名 うち生活相談員兼務5名 非常勤兼務10名)

調理職員 5名 (常勤1名・非常勤4名)

運転手 1名 (非常勤)

●利用者目標(延べ人数) 単位:人

4月	5月	6月	7月	8月	9月
0	0	7	8	9	11
10月	11月	12月	1月	2月	3月
7	19	18	18	10	16

## <別表1>月間目標と反省

### 1) 地域活動交流事業

- 4月の目標 ① 新年度の年間計画の準備、書類の整備を行う。  
② コロナ禍でケアプラザの自主事業が休止となっている。宣言解除後感染対策を取りながら再開できるように準備を進めていく。
- 反省 ① 新年度の年間計画に基づき、関係者と日程・内容調整及び書類の整理を行った。  
② 緊急事態宣言の解除後、感染対策が可能な自主事業については順次再開を行うことができたが、飲食などを伴う事業については感染対策の準備が整い次第再開に向けて準備を行っていく。
- 5月の目標 ① SNS等（Facebook、Twitter）を活用した情報発信を強化していく。  
② サブコーディネーターの入退職に伴い、サブコー会議等を活用し引き継ぎ及教育を行い業務に支障が出ないようにしていく。
- 反省 ① 貸館予約状況や自主事業の実施状況等、こまめに情報発信を行うことが出来た。引き続きSNSを活用した発信を行っていく。  
② 入退職に伴う業務の引き継ぎも、サブコー会議、サブコーマニュアル等を活用し進めることが出来た。
- 6月の目標 ① たいしょう食堂（食品配布会）実施に向けて、地域の企業や支援団体等とも連携し横のつながりを作っていく。また、参加者へも今回新しく作成した連絡先カードをお渡しし、つながりを作っていく。  
② ICTを活用した研修等ができるようにするため、講師の調整などを行っていく。
- 反省 ① たいしょう食堂（食品配布会）実施。参加された方へ作成した連絡先カードの配布を実施。食品配布実施に向けて、地域の企業や支援団体等へも働きかけを行い多くのご支援を頂くことが出来た。引き続き、各種団体との連携ができるように支援を行っていく。  
② ICTを活用した研修等が行えるように、職員向けに勉強会を実施。引き続きICTを活用した事業が地域向けに展開できるように準備を行っていく。
- 7月の目標 ① スマホ講座実施に向けて、事業の周知活動や事業内容の調整など、関係団体と連携し準備を行っていく。  
② ICTを活用した事業（住民向け講座など）を実施するにあたり、運営協議会や子育て連絡会などで運用することにより、問題点や課題点を洗い出し、今後の事業展開に生かしていく。
- 反省 ① スマホ講座実施に向けて関係機関と連携し準備を進める事が出来た。事業の周知（募集）もSNS等を活用したことにより、新しい参加者を募ることにつながる事が出来た。  
② ICTを活用し会議等を実施することが出来たが、地域住民（参加者）向けに活用方法について講座等を行う必要があることを改めて認識することが出来た。
- 8月の目標 ① コロナ禍で事業の再開に向けて準備を進めているが、再開の目途が立たない事業も多くあるため、他部署等とも連携し早期再開を目指していく。  
② スマホ講座や傾聴ボランティア養成講座などが開始されるため、講師等と連携をとり準備を進めていく。また、感染対策をしっかりと行い参加者が安心して参加できるように配慮していく。
- 反省 ① 緊急事態宣言を受け、事業の再開に向けての準備（検討）を進めることが出来なかった。引き続き事業再開に向けて、他部署や他区等の取り組み事例などを参考にしながら検討を行っていく。  
② 8月に関しては、緊急事態宣言を受けて、2事業（傾聴ボランティア養成講座、スマホ講座）とも延期となった。9月実施に向けて現在、講師等と日程を含めて調整を行っている。

- 9月の目標 ① 11月の読書活動推進月間における、他施設と連携（地区センターや保育園、市民図書等）したイベント開催（実施）に向けて準備を行っていく。
- ② 8月から延期となった事業（傾聴ボランティア養成講座、スマホ講座）の実施に向けて、関係機関と連携し調整を行い、参加者が安心して参加できるように配慮していく。
- 反省 ① 11月の読書活動推進月間における図書イベントは、現在実施に向けて関係機関と役割分担するなど連絡を密にしながら準備を進めている。引き続き11月の実施に向けて広報活動などを行っていく。
- ② 9月実施予定だった傾聴ボランティア養成講座については、感染状況を考慮し今年度の開催は見送ることとなった。次年度感染状況等を考慮しながら開催できるか見極めていく。スマホ講座については、10月から実施する方向で講師と調整を行っている。
- 10月の目標 ① 大正地区他施設合同で初めて開催する、11月の読書活動推進月間における図書スタンプラリー実施に向け引き続き各施設と連携し準備を進めていく。
- ② 10月に実施予定のスマホ講座、公園遊び、お世話体験会などの事業実施に向けて、講師の方や関係機関と情報共有し、参加者が安心して活動できるように配慮していく。
- 反省 ① 大正地区他施設合同の図書スタンプラリー実施に向けて、関係機関とも連携を行いながら準備を進める事が出来た。
- ② 10月実施予定の事業（スマホ教室・公園遊びなど）は、感染対策に留意し、実施することが出来た。
- 11月の目標 ① 図書スタンプラリーを通して、他施設との連携強化だけではなく地域の皆様にも沢山の場所があることを知って頂ける機会となるように進めていく。
- ② たいしょう食堂はコロナ禍により食品配布会として活動を行っているが、食堂再開に向けた話し合いを徐々に進め、問題・課題の把握を行っていく。
- 反省 ① 図書スタンプラリーを実施し、今までよりも多くの方が本を借りられる機会は増えてきた。しかし実際に借りられた方からは、貸出票への記入等簡素化できないかとのご意見も伺っている為、今後検討を行っていく必要がある。
- ② たいしょう食堂は来年3月頃から食堂の再開に向けて準備を進めている。現在行っている配布会と並行開催が出来ないか引き続き検討を行っていく必要がある。
- 12月の目標 ① 年末年始の休館の周知や、区分Ⅱ団体への福祉保健活動の進捗状況などの確認を行い、各団体が困ることがないように、サブコーとも連携し進めていく。
- ② 今年度小学校への出前授業を実施予定。紙芝居を活用して、ケアプラザの役割や担っている事などを知っていただく。また、今回のテーマ「誰もが安心して心豊かに」、な地域とは何かを児童たちにも考えてもらえるように授業を行う。
- 反省 ① 区分Ⅱ団体への福祉保健活動の進捗状況などの確認は、サブコー会議にて情報共有し進めることが出来ている。また、年末年始の休館お知らせを館内へ掲示、また貸館予約受付日に関しても情報発信を行った。
- ② 小学校4年生への出前授業を実施。紙芝居等を活用しケアプラザの役割、人権について「誰もが安心して心豊かに」をテーマに講座を行った。引き続き近隣の学校でも出前授業等ができるように働きかけを行っていく。
- 1月の目標 ① 貸室利用団体へ、2月からの冷温水発生機工事に伴う注意事項のお知らせを郵送等活用し丁寧に周知していく。
- ② たいしょう食堂が、3月以降配布会から食堂へ変更を検討している為、近隣の食堂を実施している活動団体等と連携を取りながら、後方支援を行っていく。
- 反省 ① 2月実施予定の冷温水発生器工事に伴うお知らせを、各団体へ貸館予約時などに説明し周知を行うことが出来た。また、暖房停止期間中に使用する代替えの暖房器具などの準備も進めている。
- ② 3月のたいしょう食堂は感染症拡大を受け配布会を実施することとなったが、引き続き食堂の再開に向けて実行委員会のメンバーと検討を行っていく。

- 2月の目標 ① 新型コロナウイルス感染拡大を受け、改めて館内の消毒などについて、サブコー会議を活用し再検討を行っていく。  
 ② 1/21～のまん延防止等重点措置の発出を受け、対面での講座の実施が難しい為 ICT (ZOOM など) を活用し開催が出来ないか講師の方も含め検討を行っていく。
- 反省 ① 館内の消毒などについて、サブコー会議を通じて再検討を行うことが出来た。  
 ② 父親育児支援講座、子育て連絡会など ICT (ZOOM) を活用し実施することが出来た。引き続き感染状況に応じてハイブリッドにて開催できるよう調整を行っていく。
- 3月の目標 ① 新年度に向けて、書類の整理、事業計画など準備を進めていく。  
 ② 不登校児の居場所作りに向けて保護者・関係機関と連携をしながら実施に向け検討を行っていく。
- 反省 ① 今年度の書類の整理、次年度に向けての事業計画については、講師の方などと密に連絡を取り合い進める事が出来た。(次年度も ICT を活用し事業を進めていく)  
 ② 不登校児の居場所作りに向けて、現在話し合いを進めている。引き続き次年度開催できるように、関係機関等とも連携し進めていく。

## 2) 地域包括支援センター事業

- 4月の目標 ① 緊急事態宣言解除後も感染予防について利用者に注意喚起を行う。職員自身も感染予防を徹底し体調管理に十分留意する。  
 ② 新年度、介護保険改正、各事業の再開、コロナ禍においてもより良い業務が行えるよう、常に情報共有を行うとともに書類整理を今一度行う。
- 反省 ① 緊急事態宣言解除後も感染予防について利用者に注意喚起を行った。職員自身も感染予防を徹底し体調管理に十分留意した。(継続目標とする)  
 ② 新年度、介護保険改正、各事業の再開等の様々な変化に柔軟な対応を心掛け、コロナ禍においてもより良い業務が行えるよう、情報共有の場を設けた。各自が書類等の整理を行った。
- 5月の目標 ① 自主事業や利用者訪問を行う際は、コロナウイルス感染予防対策の徹底を継続今後行う。  
 ② 利用者に対しても、感染予防のさらなる継続を周知する。
- 反省 ① ケアプラザでの事業実施時および利用者宅訪問時には、感染予防対策を徹底した。  
 ② 担当する利用者に対して、感染予防の継続を引き続き周知した。
- 6月の目標 ① コロナウイルス変異株による感染が増加していることから、職員および利用者の感染予防対策を今後も継続する。
- 反省 ① まん延防止等重点措置が延長となり、今まで通り感染予防対策を徹底し利用者にも注意喚起を行った。
- 7月の目標 ① コロナウイルス変異株による感染が増加していることから、職員および利用者の感染予防対策を今後も継続する。  
 ② 8月開催予定の「居介支連絡会・生活支援交流会」を、生活支援コーディネーターと企画立案し募集を開始する。  
 ③ 7月から開催予定の介護予防講座「いきいき健康体操」の準備を滞りなく進める。
- 反省 ① コロナウイルスへの感染予防対策を継続するとともに早期のワクチン接種に向け、各自努力をした(一部職員は協力医のご厚意で接種が実現)。  
 ② 8/23 開催予定の「居介支連絡会・生活支援交流会」を、生活支援コーディネーターと企画立案し募集を開始した。  
 ③ 7月から開催の介護予防講座は問題なく開催出来ている
- 8月の目標 ① 8/23 開催予定の「生活支援交流会、ケアマネジャー連絡会・研修会」を滞りなく開催する。

- ② 引き続き、新型コロナウイルス感染予防に努める。
- 反省 ① 8/23 開催の「生活支援交流会、ケアマネジャー連絡会・研修会」は感染予防を充分に対策し、6 事業所 14 名のケアマネジャー、他関係機関含め計 21 名の参加があり好評を得た。
- ② 新規感染者の増加もあり、職員自身はもちろんのこと利用者にも感染予防の注意喚起を行った。
- 9 月の目標 ① 緊急事態宣言の延長が行われたこともあり、引き続き感染予防に努める。
- 反省 ① 気を緩めることなく引き続き感染予防に努めた。
- 10 月の目標 ① 10 月開催予定の認知症講座の準備を進め、滞りなく開催する。
- ② 職員のワクチン接種 2 回目は終了したが、引き続き新型コロナウイルス感染予防に努める。
- 反省 ① 10/28『認知症講座』開催予定（参加募集定員は 20 名で満員）。滞りなく開催する。
- ② 緊急事態宣言は解除されたが、感染予防を継続し業務にあたった。
- 11 月の目標 ① 運営協議会、介護リハビリ研究会の発表に向け準備を完了する。
- ② 新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の感染予防について、利用者に注意喚起を行い職員自身も予防に十分留意し業務にあたる。
- 反省 ① 運営協議会、介護リハビリ研究会は、準備の時間を計画的に設け発表を行った。
- ② 新型コロナについては第 6 波への備え、インフルエンザについては早めの予防接種などの声掛けを利用者に行った。
- 12 月の目標 ① PDCA、次年度計画を期日までに提出するよう準備を行う。
- ② 引き続き、新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の感染予防に努める。
- 反省 ① PDCA 振返りを五職種で話し合いの場を設け作成し、期日に提出した。また次年度計画は部署内で検討した。
- ② 新型コロナウイルス、インフルエンザについて感染予防と予防接種などの声掛けを利用者に行った。
- 1 月の目標 ① 2 月開催予定のケアマネジャーと民生委員との合同研修会を企画立案し関係者に周知する。
- ② 新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の感染は落ち着いているが、油断せず感染予防を心掛ける。
- 反省 ① 2 月開催予定のケアマネジャーと民生委員との合同研修会を企画立案し、民児協の場にて開催案内を行い、エリアのケアマネジャーには事業所訪問して開催案内した。
- ② 1/21 から「新型コロナウイルスまん延防止等重低措置」が適応されたため、業務や事業の確認と情報を整理するとともに、より一層の感染予防を行った。
- 2 月の目標 ① 2/24 開催の「民生委員とケアマネジャーとの合同研修会」の開催可否を協力医と検討する。
- ② 1/21 から発令された「新型コロナウイルスまん延防止措置」に基づき、感染予防対策、利用者対応などを行っていく。
- 反省 ① 2/24 開催予定の「民生委員とケアマネジャーとの合同研修会」は多数の参加希望があったが、コロナウイルス感染拡大中のため中止とした。
- ② まん延防止措置が延長されたことで、自主事業の中止や利用者宅同行訪問の制限、職員勤務スペースの分散化などの対応を行い、感染リスクを最小限にする対策を取った。
- 3 月の目標 ① まん延防止措置が再延長されたため、引き続き感染予防対策および利用者対応などを行っていく。
- 反省 ① 職員自身および利用者対応時の感染予防対策を実施し、新型コロナへの備えを行った。

### 3) 生活支援体制整備事業

- 4 月の目標 ① 人事異動に伴い、業務の引継ぎを円滑に行う。



- ② 地域活動が再開できていない団体等への意向確認を行っていく。  
 ③ 4月から介護予防事業が開始となるため、感染予防に留意し開催する。
- 反省 ① 業務についても前任者も多忙につき時間が中々作れずに引継ぎが円滑には行えなかった。  
 ② 地域活動の再開が難しく、いくつかの地域活動とは話をする事は出来たが引続き状況を見ながらコンタクトをとり意向確認を行っていく。  
 ③ 4月からの介護予防事業では3団体の事業に人事異動に伴う挨拶を行う事が出来、2事業は参加する事も出来たので、引き続き事業の推進に関わっていきたいと思う。
- 5月の目標 ① 人事異動に伴い、引き続き業務の引継ぎを円滑に行う。  
 ② 引き続き、地域活動が再開できていない団体等への意向確認を行っていく。  
 ③ 4月から介護予防事業が開始となっている為、感染予防に留意し開催する。
- 反省 ① 人事異動に伴い、業務の引継ぎを円滑に行うようにしたが出来ていない事もあった。  
 ② 地域活動が再開できていない団体等への意向確認を行って行きたいが新型コロナで思う様に出来ていない。  
 ③ 介護予防事業が開始となっている頃に参加する事も有るので引き続き感染予防に努めていく。
- 6月の目標 ① 引き続き人事異動後の、業務引継ぎを円滑に行う。  
 ② 地域活動が再開できていない団体等への関わりを検討して行く。  
 ③ 介護予防事業、地域の活動も行われている所へ出向く事も有るので、感染対策に努めていく。
- 反省 ① 引き続き人事異動後の業務引継ぎを円滑に行っているが、都度行わなければならないこと等も有るので、継続して行っていく。  
 ② まだまだワクチンの接種が進んでいない為に地域では活動が再開できていない団体等有るので、連絡を取りながら活動の支援を行っていく。  
 ③ 地域活動への参加も有る為、引き続き感染対策を継続していく。
- 7月の目標 ① 引き続き時間を見ながら業務の引継ぎを行っていく。  
 ② まん延防止措置・ワクチン接種等の状況を見ながら地域の活動団体と連絡を取り、町内の定例会等に顔を出しながら様子確認を行っていく。  
 ③ ニコニコフリーマーケット・幸和建設イベント等、地域活動コーディネーターと協力して取り組んでいく。  
 ④ 日々の体調管理、感染対策を継続していく。
- 反省 ① 業務の引継ぎは、時間が無く思うように出来なかったため、時間を調整して進めて行きたい。  
 ② 徐々にではあるが高齢者のワクチン接種が進み、町内会の定例会にも参加出来るようになってきた。継続して参加し、町内会役員の方々には顔を覚えていただくと共に各町内の抱えている問題や状況を把握していきたい。  
 ③ 7/24.25と地域のイベントが開催されるので、地域活動コーディネーターに色々教えてもらいながら活動していく。  
 ④ 横浜市内の新型コロナ感染拡大が収まらない状況なので引き続き『感染予防対策を実施』しながら日々の体調管理に努めていく。
- 8月の目標 ① 引き続き業務の引継ぎを行っていく。  
 ② 8月も原宿町内会や大正団地自治会の会議に出席し、役員等の方々にお会いして顔を覚えていただくと共に地域の問題や状況把握に努める。影取町内会・原宿団地自治会などともコンタクトをとり役員会等が行われる際には参加する。  
 ③ 8月は地域の体操等の活動が休みとなり時間の調整がしやすいため『他区で行われている移動販売や買い物送迎』の見学、また泉区の『宮の前テラス・サービスB事業』への見学も計画している。
- 反省 ① 引き続き業務の引継ぎを随時行っていく。9月に行う『スマホ教室』の情報共有もでき、緊急事態宣言の状況を見ながら前任者・ドコモと検討していく。  
 ② 原宿町内会役員会では会長はじめ役員の方々とお会いする事が出来た。原宿

団地・大正団地自治会とは調整がつかず、東俣野町内会・影取町内会とは  
コンタクトが取れ、次回の会合にも参加する。

- ③ 『他区で行われている移動販売や買い物送迎』の見学を計画していたが、諸事情で行く事が出来なかった。『宮ノ前テラス・サービスB事業』の見学も緊急事態宣言のために延期となった。

#### 9月の目標

- ① コスモ戸塚ルミネンスの民生委員から区役所に相談があったため区役所・区社協と連携し、要請があれば『居場所作りや見守りの為の手段』などを助言できる様に準備していく。
- ② 9/5『地域防災拠点会議』は中止。小雀町内会とは次回の開催に向けての情報確認をしていく。9/12 東俣野町内会にて『ハマッコトイレ』設置に向けた動きの確認と11月に東俣野小学校で行う地区防災会議への参加に向けて調整をしていく。
- ③ 『森のカフェ小雀』『影取友和会』の再開に向けて両町内会・役員の方々と連絡を取り調整をしていく。
- ④ 感染症対策を継続し、緊急事態宣言の様子を見ながら町内会や自治会等の様々な動きに対応できるように、情報収集を行う。

#### 反省

- ① コスモ戸塚ルミネンスの事案は動きがなく、引き続き様子を見ていく。
- ② 東俣野町の『はまっこトイレ』の最終確認は来年度に延期、実施時には連絡頂けるように調整した。
- ③ 『森のカフェ小雀』は依然として再開の目途はたたず。
- ④ 2つの町内会とは上手く連絡を取り会合にも参加。町内の様子も確認できたので来月も継続していく。

#### 10月の目標

- ① 『ぐるーぷちえのわ』がNPO法人、サービスB事業の申請に向けて活動中のため、引き続き協議体開催に向けて後方支援を行っていく。
- ② 小雀町内会の会合に参加し、『森のカフェこすずめ』の関係者と再開に向けた情報の確認を行う。
- ③ 影取町内会、東俣野町内会との関係を深める為に感染症対策を考慮しつつ、関係者とコミュニケーションをとっていく。

#### 反省

- ① 『ぐるーぷちえのわ』は、NPO法人・サービスB事業申請に関して活動できている。10月の協議体は区役所・区社協も参加して有意義な会議になった。
- ② 小雀町内会と情報確認をする事が出来た。『森のカフェこすずめ』が11月から活動再開する事が決まったので、関係者や町内会・ハートケア小雀と連絡を取りカフェ運営の後方支援にあたる。
- ③ 活動が中止となっていた影取町内の『友和会』の再開が決まり、講師派遣等で町内の方々とも連携が図れた。東俣野町内会とも良い関係を築く事が出来、民生委員の方々と連絡が取れるようになってきている。

#### 11月の目標

- ① 東俣野町内会で行われる『地域防災拠点会議』に参加し地区の状況を把握していく。
- ② 影取町・原宿3丁目・小雀町で中止していた活動が再開されたので関係性構築の為に参加し状況を把握していく。
- ③ 『ぐるーぷちえのわ』と継続して連絡を取り、NPO法人・サービスB事業申請の為の後方支援を引き続き行う。
- ④ 原宿1丁目の『ハーモニー戸塚台・カフェ』が依然として再開の動きが無いので状況を確認していく。

#### 反省

- ① 東俣野町内会の『地域防災拠点会議』に参加した。地区防災の状況等を今後にかかしていく。
- ② 影取町・原宿3丁目・小雀町で中止していた活動が再開され、後方支援の為に関係性構築に努めた。
- ③ 『ぐるーぷちえのわ』のNPO法人・サービスB事業申請の為の後方支援を継続し、町内会・地区社協・区役所・横浜市都市整備局とも連携を行った。
- ④ 原宿1丁目の『ハーモニー戸塚台・カフェ』は依然として再開の目途がたっていない為、関係者と検討を続ける。

#### 12月の目標

- ① 『ぐるーぷちえのわ』の活動ホームの開所に向け、市役所・区役所等との様々な打合せ等に参加し、状況の把握を行う。

- ② 活動が再開した所にも継続的に参加し、感染症対策等が適切に行われているか等も確認しながら後方支援を行う。
- ③ 年末で業務も多忙になるので計画性をもって活動する。
- 反省 ① 『ぐるーぷちえのわ』活動ホーム開所に向け、市役所や区役所と事前の連携をする事ができた。
- ② 活動を再開した所へ感染症対策の情報提供を行い、引き続き後方支援に動いている。
- ③ 業務の都合で活動計画を変更する事もあったが、ほぼ計画通りに行えた。
- 1月の目標 ① 『ぐるーぷちえのわ』のサービスB事業の申請を継続して支援していく。
- ② 年末年始、町内会自治会等に挨拶に伺い、関係性構築に努めていく。
- ③ 1月も感染症の状況を見ながら地域へ出向き、ニーズ把握に努めていく。
- 反省 ① 『ぐるーぷちえのわ』に関する区役所、ケアプラザの書類提出は済んだが、4月のサービス開始に向けての情報提供はすることができなかった。
- ② オミクロン株の影響も考慮して挨拶できていない自治会もあった。
- ③ 地域で活動を継続している団体や地域の情報収集が思うようにできなかった。
- 2月の目標 ① 深谷町で空き家のリノベーションが始まるとの事で、関連先との関係を構築しケアプラザとして情報提供等支援をしていく。
- ② オミクロン株の急激な拡大で地域のさまざまな活動が中止となっているので、関係者と連絡を取りながら状況の把握をしていく。
- ③ 自治会や町内会の会合に参加する予定だが、状況を踏まえ連絡を取り確認していく。
- 反省 ① 深谷町での空き家改修はまだ開始されていないが、今後も関係性を維持し情報収集を行なっていく。
- ② オミクロン株の急激な拡大で地域のさまざまな活動が中止となっているが、関係者と連絡を取り様子を見る事は出来た。引き続き確認していく。
- ③ 自治会や町内会の会合に参加する予定は全て中止となった。今後も電話等で確認していく。
- 3月の目標 ① 『ぐるーぷちえのわ』が4月よりサービスBを実施するので関係者を支援し、無事にNPO法人として迎えられる様にする。
- ② 地域の買い物情報・Ayamuのデーター収集を行っていく。
- ③ オミクロン株感染拡大で地域活動や町内会会合等への参加ができていないので様子を見ながら参加していく。
- 反省 ① 『ぐるーぷちえのわ』は、横浜市介護予防・生活支援サービス支援補助事業(サービスB)は内定したが、NPO法人認可の通知は現時点では出ていないので確認していく。
- ② 地域の買い物情報は更新出来たが、Ayamuのデーター収集は進んでいないので、継続して行う。
- ③ オミクロン株感染拡大で3/21までは『まん延防止等重点措置等』が継続している為に活動は自粛していく。

#### 4) デイサービス事業

- 4月の目標 ① 引き続き感染症対策を行っていく。(検温・手洗い・消毒の徹底・マスクの呼びかけ等。)
- ② 節句、工作等の行事を事故なく行っていく。
- ③ 3月は事故が4件(車両、利用者転倒等)あり、労災対応事故も1件発生した。職員で情報共有し、同じ繰り返しが起こらないように対策していく。
- ④ 業務改善を今後も行い、職員が無理なく業務を終えられるように考えていく。
- 反省 ① 感染症対策を行った。手洗い消毒はかなり習慣化できているがマスクはどうしても外してしまう方がいるため、その都度声掛けを行いマスクの着用を徹底した。

- ② 節句工作は事故なく作品作りを楽しんで頂けたようだった。
- ③ 4月の初めに車をこする事故があったがそれ以降は事故なく業務を行う事が出来た。
- ④ 声掛けを行い役割分担が出来た事で、入浴業務や残り番業務など少しずつ早く終わらせることが出来てきている。
- 5月の目標
- ① 節句週間、選択アクティビティを事故なく楽しんで頂けるようにする。
- ② 感染症対策を引き続きしっかり行っていく(マスク着用の声掛け、乗車前の検温等)。
- ③ 気温が上がってきているので水分補給の声掛けをしっかり行い、脱水などを起こさない様に注意を促していく。
- 反省
- ① 節句週間、選択アクティビティを事故なく楽しんでいただけた。
- ② 感染症対策は、引き続きしっかり行っている。マスクの着用については理解が出来ない方も多く、その都度声掛けを行っている。その他に乗車前の検温・アルコール手指消毒、換気、到着時・昼食時・おやつ時は手洗いを徹底している。アルコールについては車内の気温上昇に伴い、日中は室内に戻している。他に、トイレの定時消毒、浴室・脱衣場の消毒、夕方の室内消毒を行っている(使用した色鉛筆なども)。
- ③ 気温が上がってきているので水分補給の声掛けをしっかり行い、脱水などを起こさない様に注意を促した。
- 6月の目標
- ① 6月から認知症対応型通所介護事業所開設に伴い、少しずつ準備を行っている。(E型に置いてあるソファ等や机等、レイアウトの変更があるので非常勤職員や利用者にも伝えていく)。
- ② 梅雨時期に入るので食中毒にも注意をし、5月同様、引き続き感染症対策も行っていく。
- ③ 選択アクティビティを事故なく楽しんで頂けるようにする。
- ④ 気温が高くなってきたので、職員や利用者の水分補給を心掛けていく。
- 反省
- ① 6月から認知症対応型が開設し整容の場所が月曜日のみ廊下にて行うようになったので、アナウンスを行った。特に混乱は見られていない。
- ② 梅雨に入ったので食中毒にも注意し、手洗い、消毒を行っている。ポット等も消毒しカビ防止等を行っている。引き続き感染症対策も行った。
- ③ 選択アクティビティは事故なく行う事が出来た。
- ④ 気温が上がっているため、室内のエアコンや扇風機を回しながら熱中症対策やこまめに水分補給などの声掛けを行った。
- 7月の目標
- ① 引き続き感染症対策(消毒)の徹底や食中毒などに気をつけていく。
- ② 選択アクティビティを事故なく行う。
- ③ 熱中症対策(水分補給等声掛け)を行う。
- 反省
- ① 引き続き感染症対策(消毒)を徹底し食中毒などに気をつけた。(利用者のマスク着用と手洗い、消毒を徹底した。1日3回窓を全開にし、換気を行った。)
- ② 選択アクティビティを事故なく行う事が出来た。
- ③ 熱中症対策として、利用者へ水分を摂って頂くように声掛けをし、午後4時に水分の提供を行った。
- 8月の目標
- ① 引き続き感染症対策(消毒)の徹底や食中毒などに気をつける。
- ② 夏祭り週間を事故なく楽しんで頂く。
- ③ 熱中症対策(水分等声掛け)を行う。
- 反省
- ① 引き続き感染症対策(消毒)の徹底や食中毒に気をつけた。定時消毒に加え12時の消毒も行い、利用時のテーブルの消毒、デイサービス開始前と終了後のテーブルと椅子の消毒を行っている。
- ② 夏祭り週間を事故なく楽しんで頂くことができた。
- ③ 熱中症対策を行った。職員による声掛け、通常の水分補給に加え16時に水分提供を行っている。
- 9月の目標
- ① 引き続き感染症対策と熱中症対策を徹底する。

- ② 敬老週間、選択アクティビティを事故なく楽しんで頂く。
- ③ 新しく3名入職したので、業務内容を教えていく。
- ④ 車両接触事故があったので、中乗りが周囲の確認と後進時は必ず降りて誘導を行う。

- 反省
- ① 引き続き感染症対策（定時の消毒・マスクや手洗いアルコール手指消毒・換気等）の徹底をした。水分補給を心掛けた。
  - ② 敬老週間・選択アクティビティを事故なく楽しんで頂いた。
  - ③ 新しく入職した3名に、引継ぎ事項や業務内容等共有する事を教えている。車椅子での階段昇降等練習を行ったので徐々に慣れてもらう。
  - ④ 車両接触事故への対策を共有し、事故なく行えている。

- 10月の目標
- ① 引継ぎ感染症対策を行い、コロナウイルス、インフルエンザや風邪等にも注意していく。
  - ② 去年同様運動会は中止し、体力測定 10/5（火）～10/11（月）を事故なく行う。
  - ③ 10/4（月）防災訓練（地震から火災発生想定）を事故なく行う。

- 反省
- ① 引き続き感染症対策として今まで通り、乗車前の検温・手洗い・消毒・部屋の換気など基本的な感染対策を行い、利用者様にも都度説明を行っている。
  - ② 体力測定は事故なく行うことが出来た。外出機能訓練も体力測定も連絡帳でご家族やご本人からいい反応も頂けた。
  - ③ 防災訓練時の事故は無かったが、今回初めて地域の方も参加しての訓練だった為、様々な反省の意見も上がった。次回の訓練時には反省を生かして行いたい。

- 11月の目標
- ① 感染症対策は引き続き行っていく。コロナだけではなくインフルエンザなどの感染症にも気を付け、乾燥時には加湿なども行っていくようにする。
  - ② 選択アクティビティを事故なく楽しんで頂く。
  - ③ 日が短くなっているなので、早めのライト点灯など心掛け、車の事故に気を付ける。

- 反省
- ① 引き続き、感染症対策を行った。寒くなり空気も乾燥してきたので室内では加湿器を稼働させている。
  - ② 選択アクティビティを事故なく楽しんで頂く事ができた。
  - ③ 日が短く暗くなってきているので夕方の送迎時は、早めのライト、車内灯、懐中電灯を使い安全の確保を行っている。

- 12月の目標
- ① 引き続き感染症対策としてコロナ、インフルエンザやノロウイルス等にも注意する（うがい手洗い・換気・手指消毒等）。感染症対策DVDを見ていない職員がいるので、共有認識として12月までに確認する。
  - ② 大掃除を計画的に行い年末までに終わらせる。
  - ③ 12/1（水）～12/7日（火）までの選択アクティビティを事故なく行う。
  - ④ クリスマス週間はボランティア訪問等がない為、職員が行い事故なく楽しんでいただく。

- 反省
- ① 感染症対策として（コロナ、インフルエンザやノロウイルス等）うがい手洗い、換気、手指消毒等を行った。感染症対策のDVDを見る事は出来なかった。職員は個別で見る事とする。湿度を保つ為に夜間は洗濯物を室内に干し加湿を心掛けた。
  - ② 大掃除は、計画的、順調に行われている。
  - ③ 12/1～12/7までの選択アクティビティは11月中旬に工作を行ったため、実施しなかった。
  - ④ クリスマス週間（12/20～12/25）は事故なく楽しんで頂くよう計画を立てて準備する。訪問がないのでデイ職員が出し物を行う。

- 1月の目標
- ① 引き続き感染症対策を行う。（うがい手洗い・換気・手指消毒の徹底）夜間は洗濯物を室内に干し加湿を心掛ける。
  - ② 初釜週間（1/4～1/7）を事故なく行う。
  - ③ 利用者様の体調管理を行う。

- 反省 ① コロナウイルス(オミクロン株)の感染が拡大して、職員にも感染者が出てきたので、今まで以上に感染症対策を行い利用者様、職員に、うがい・手洗いの声掛けを行っている。
- ② 初釜週間(1/4~1/7)を事故なく終わることが出来て、利用者様にも楽しんで頂けた。
- ③ 利用者様への、職員・看護師による体調の確認の声掛け、バイタルチェックを行っている。
- 2月の目標 ① 新型コロナウイルス感染拡大を受け、引き続き感染症対策を行っていく。(うがい、手洗い、換気、手指消毒等。)
- ② 節分週間・雛祭り工作週間で事故なく行う。
- ③ 車両事故を起こさないように気を付ける。(1月に自転車による送迎車への当て逃げがあった。)
- 反省 ① コロナウイルス感染拡大しているので、引き続き感染症対策を行った。消毒・換気(車両も含む)を徹底し、乾燥しているのでバスタオルや加湿器を使い湿度を保った。
- ② 節分週間ひな祭り工作共、事故なく行い利用者楽しんで頂くことが出来た。
- ③ 車両事故を起こさないように気を付けているが、2/15利用者ご自宅の玄関に積んでいたブロックに送迎車の車両ステップが接触してしまう事故があった(怪我人等はなし)。
- 3月の目標 ① 引き続き、感染予防対策を行っていく。コロナウイルス(オミクロン株)対策を徹底。乾燥もしているので加湿を心掛ける(湿度を保つ為、洗濯物を室内に干す等)。
- ② ひな祭り週間(2/25~3/3)を事故なく楽しんで頂く。
- ③ 2月は事故が5件報告されているので職員全員が対策を把握し事故防止に努める。
- 反省 ① コロナウイルス感染拡大が続いているので、引き続き感染対策を行った。使用した物の消毒の徹底・換気(車両含む)を行った。室内が乾燥しているのでバスタオルや加湿器を使用し湿度を保った。
- ② 雛祭り週間は事故なく行う事ができ、利用者様にも楽しんで頂いた。
- ③ 車両事故を起こさない様気を付けた。3月に運転手が入職し、指導しながら安全運転に気を付ける事が出来た。(4月にも運転手が入職するので引き続き安全運転に気を配り指導していく。)

## 5) 居宅介護支援事業

- 4月の目標 ① 4月の制度改正について熟知をしていく。
- ② 新職員の職務が滞りなく進められるよう請求業務など3月に行えなかった引き継ぎを行っていく。
- ③ 緊急事態宣言が解除となるが新型コロナの変異ウイルス感染の流行が懸念されるため、引き続き感染症対策を行い、モニタリング訪問時には感染防止のための声かけを行っていく。
- 反省 ① 4月の制度改正について熟知できるように内容確認をした。
- ② 新職員の職務が滞りなく進められるよう請求業務など3月に行えなかった引き継ぎを行った。
- ③ 緊急事態宣言が解除となるが新型コロナの変異ウイルス感染の流行があるため引き続き対応を行い、モニタリング訪問時には感染防止のための声かけを行った。
- 5月の目標 ① コロナ感染拡大予防に努め、今年度の事業計画に沿って、件数の達成をしていく。
- ② 業務マニュアルの活用と新制度の理解につとめ、新任職員の業務習熟度を高めていく。
- 反省 ① コロナ感染拡大予防に努めた。今年度の事業計画通りの件数を達成すること

は出来なかった。

- ② 業務マニュアルの活用と新制度の理解につとめ、新任職員の業務習熟度を高めた。
- 6月の目標 ① 食中毒などが発生しやすい時期なので、食材管理や衛生管理の注意喚起をする。
- ② 訪問時等に、熱中症予防のためのエアコンの使用、水分補給など体温管理を促す。
- 反省 ① 食中毒などが発生しやすい時期なので、食材管理や衛生管理に対する注意喚起をした。
- ② 熱中症予防のため、エアコンの使用・水分補給など体温管理を促した。
- 7月の目標 ① 新型コロナウイルスワクチン接種実施についての有無や副反応についての把握をする。
- ② 引き続き、熱中症や脱水、食中毒等の予防の声かけをモニタリング時や電話等で行う。
- 反省 ① 新型コロナウイルスワクチン接種実施についての有無や副反応についての把握に努めた。
- ② 引き続き、熱中症や脱水、食中毒等の予防の声かけをモニタリング時や電話等で行った。
- 8月の目標 ① コロナ感染による影響が引き続き大きく見られている為、職員は体調管理に努めるとともに、職員自身の感染や利用者及び関係者等の感染や濃厚接触のリスクに備え、ケースの情報共有を強化する。
- ② 本格的な夏に入る為、熱中症や脱水にならないよう、モニタリング時や電話等で利用者の体調及び居住環境の確認に努める。
- 反省 ① 職員は体調管理に努めるとともに、職員自身の感染や利用者及び関係者等の感染や濃厚接触のリスクに備え、会議等でケースの情報共有を行った。また、WEB会議を活用することで感染予防に努めた。
- ② 熱中症や脱水にならないようモニタリング時や電話等で利用者の体調及び居住環境の確認を行うことができた。
- 9月の目標 ① 8月に引き続き職員の体調管理に努め、万が一職員が感染した場合に備えて他ケアマネジャーが対応できるようにケースの情報共有の強化を図っていく。
- ② 暑い日が続く、熱中症や脱水の危険性があるためモニタリング時等で利用者の健康確認に努めていく。
- ③ 第一四半期を振り返り、年度大目標の達成のため、ケアプランの依頼の対応に努めていく。
- 反省 ① 8月に引き続き職員の体調管理に努め、万が一職員が感染した場合に備えて他ケアマネジャーが対応できるようにケースの情報共有の強化を図った。
- ② 暑い日がまだ続き、熱中症や脱水の危険性があるためモニタリング時等で利用者の健康確認に努めた。
- ③ 第一四半期を振り返り、ケアプランの依頼の対応に努めたが、年度大目標は未達成だった。
- 10月の目標 ① 気候の変化による体調不良への注意喚起を行う。
- ② コロナ感染症対策を継続して行う。
- ③ 給付管理の目標達成と残業の削減に努める。
- ④ 業務効率化の為、紙ベースのファイリングの仕方を整理する。
- 反省 ① モニタリング時や電話等で気候の変化による体調不良への注意喚起を行った。
- ② コロナ感染症対策のため、スタンダードプリコーションの徹底とWEB活用の対策を継続した。
- ③ 給付管理の目標達成と残業の削減に努めたが、年間目標の達成までは至らなかった。
- ④ 紙ベースのファイリング方法を整理し、業務の効率化を図った。

- 1 1月の目標 ① 引き続き利用者の体調確認を行うとともに、インフルエンザ予防接種についても確認を行う。  
 ② 引き続きコロナ感染症の対策徹底に努める。  
 ③ 給付管理の目標達成のための新規獲得と残業時間の削減に努める。
- 反省 ① 引き続き利用者の体調確認を行うとともに、インフルエンザ予防接種についても確認を行った。  
 ② コロナ感染症の対策徹底に努めた。  
 ③ 給付管理の目標達成のための新規獲得と残業時間の削減に努めた。
- 1 2月の目標 ① 感染症が本格的に流行する時期となるため引き続き利用者の体調確認を行うとともに、インフルエンザ予防接種についても確認を行う。  
 ② 年末年始の対応ができるように情報提供等の準備を行う。
- 反省 ① 感染症が本格的に流行する時期となるため、引き続き利用者の体調確認を行うとともに、インフルエンザ予防接種についても確認を行った。  
 ② 年末年始の対応ができるように情報共有等の準備を行った。
- 1月の目標 ① コロナを含めた感染症に対し、引き続き予防の呼びかけと体調変化に留意したモニタリングを行う。  
 ② ケアマネ毎の給付人数を共有し、予算目標の達成に努める。
- 反省 ① コロナを含めた感染症の蔓延に留意し、利用者への注意喚起の声掛けを行うと共にモニタリング時の体調確認を行った。  
 ② ケアマネ毎の給付人数を共有し、予算目標の達成ができるように努めた。
- 2月の目標 ① 感染症や災害に備え共有物品の消毒を徹底するとともに、ご利用者への注意喚起や体調確認を行う。  
 ② 災害・非常時に備えた対策の準備を行う。  
 ③ 給付人数の増減を把握し、減算防止に注意して予算目標の達成に努める。
- 反省 ① 感染症や災害に備え、利用者への注意喚起や体調確認を行うと共に、会議で話し合うなど非常時に備えた対策の準備を行った。  
 ② 災害・非常時に備え対応策の検討を行い、部屋の分散等の対策を行った。  
 ③ 年末年始での給付人数の増減を把握し、予算目標の達成に努めた。
- 3月の目標 ① 感染症予防のためモニタリング時に利用者への注意喚起や体調確認を行う。  
 ② コロナウイルス感染予防の為に各施設サービス提供の縮小に伴う、サービス調整がスムーズに行えるように、情報共有をしっかりとる。
- 反省 ① 感染症予防のためモニタリング時に利用者への注意喚起や体調確認を行った。  
 ② コロナ感染予防の為に、各施設サービス提供の縮小に伴うサービス調整がスムーズに行えるように、情報提供を行った。



<別表2> 防災訓練実施結果

日時	場所	参加者	内容
令和3年7月3日(土) 10:00～11:00	大雨警報発令に伴い中止	戸塚原宿住宅住民、ケアプラザ職員、横浜市住宅供給公社職員、戸塚消防署大正消防出張所所長	防災に対する意識と知識の向上の為、各種パンフレット及び防災に関するテキストを回覧し周知を行った。 ※回覧資料「家具転倒防止器具取付代行案内」「住宅用火災警報器交換の案内」「住宅防火アドバイス」「怪我の予防対策」「マイタイムライン作成シート」「消防団募集案内」
令和3年9月27日(月)～10月1日(金)	事務所	ケアプラザ事務所職員	コロナ禍における地震による被害を想定し、福祉避難所情報共有システムを使用して、被害状況を事務局(市社協)へ報告をする「福祉避難所情報共有システム活用訓練」を実施。
令和3年10月4日(月) 14:00～14:50 17:20～17:30	デイルーム・駐車場	デイ利用者、ケアプラザ職員	地震発生後、デイ厨房からの出火を想定し、デイ利用者を安全な場所へ誘導する避難訓練と、連絡通報訓練、職員による水消火器使用訓練を実施。
令和3年11月20日(土) 10:00～11:00	多目的ホール	戸塚原宿住宅住民、ケアプラザ職員、横浜市住宅供給公社職員、戸塚消防署大正消防出張所所長	大正消防署出張所所長による「災害発生時の対応」についての講話、「防災よこはま」のDVD鑑賞、119番通報訓練を実施。水消火器訓練。
令和4年3月14日(月)～18日(金)	事務所	ケアプラザ事務所職員	元禄型関東地震により、自施設はどのような被災状況になるか、施設内被災状況を想定し、福祉避難所情報共有システムを使用して、事務局(市社協)へ報告をする訓練を実施。
令和4年3月18日(金) 14:20～14:50 17:20～17:30	デイルーム・駐車場	デイ利用者、ケアプラザ職員	地震発生後、デイ厨房からの出火を想定し、デイ利用者を安全な場所へ誘導する避難訓練と、連絡通報訓練、職員による水消火器使用訓練を実施。
令和4年3月23日(水) 15:00～15:30	多目的ホール前	ケアプラザ職員	福祉避難所が開設された際、震災により電源消失を想定した、ポータブル電源(ガスボンベ式)の操作(始動)方法の訓練。

<別表3>研修

デ介・デ相・デ看・デ調＝デイサービス介護職員・生活相談員・看護職員・調理職員

居介＝居宅介護支援事業所介護支援専門員

地コ・地サ＝地域交流コーディネーター・サブコーディネーター

包主・包福・包保・包看・包事・包予＝地域包括支援センター主任介護支援専門員・社会福祉士・保健師・看護師・事務職・予防プランナー

生コ＝生活支援コーディネーター

	研修名	研修内容	主催者	参加者
1	令和3年度ロボット・ICT導入補助金オンライン説明会	見守り機器導入、ICT機器導入補助申請について	神奈川県	1名 葛西(所長)
2	ビジネスマナーの基本	福祉職場における接遇	横浜市社協	1名 太田裕(デ介)
3	医療福祉機器の理解を深める	じょくそう対策、ベッドのマットレスの種類、適切なポジショニング	神奈川県県医師会	1名 山崎(居介)
4	令和3年度包括新任研修ZOOM①	地域包括システム～ハートプラン等	戸塚区役所	1名 瀧澤(生コ)
5	令和3年度包括新任研修ZOOM②	介保制度、保険外サービス、障がい虐待	戸塚区役所	1名 瀧澤(生コ)
6	ほーめっと「せん妄について」ZOOM	戸塚区西口りんどうクリニック加藤Dr.医師会訪問、看護大西NS.	戸塚区在宅療養連絡会	1名 坂巻(包主)
7	KITYメソッドを用いた事例検討会	ケアマネージャー10人程度が参加した事例検討会	深谷俣野地域包括支援センター	1名 葛西(所長)
8	ZOOMの使い方研修	ZOOMアカウントを活用して、ホストとしてする事等	原宿ケアプラザ	1名 葛西(所長)
9	ZOOMの使い方研修	ZOOMアカウントを活用して、ホストとしてする事等	原宿ケアプラザ	1名 渡邊(包主)
10	ZOOMの使い方研修	ZOOMアカウントを活用して、ホストとしてする事等	原宿ケアプラザ	1名 小林(地コ)
11	ZOOMの使い方研修	ZOOMアカウントを活用して、ホストとしてする事等	原宿ケアプラザ	1名 瀧澤(生コ)
12	ZOOMの使い方研修	ZOOMアカウントを活用して、ホストとしてする事等	原宿ケアプラザ	1名 奥山(デ相)
13	戸塚区元気づくりステーション連絡会	地域グループへの参加し続ける意義・効果	戸塚区	1名 瀧澤(生コ)
14	CO共通研修	CO共通研修	横浜市社協	1名 小林(地コ)
15	横浜市における成年後見制度促進研修	成年後見制度促進	横浜市	1名 渡邊(包主)
16	職場におけるハラスメント	関係指針(ハラスメント)	自主研修	1名 葛西(所長)
17	職場におけるハラスメント	関係指針(ハラスメント)	自主研修	1名 奥山(デ相)
18	2021年度介護保険改正の詳細と今後の動向	介護支援専門員の課題	横浜市社協	1名 有我(居介)
19	安全運転管理者認定講習	安全運転管理者の業務等	神奈川県	1名 佐川(デ介)

<別表3>研修

デ介・デ相・デ看・デ調=デイサービス介護職員・生活相談員・看護職員・調理職員

居介=居宅介護支援事業所介護支援専門員

地コ・地サ=地域交流コーディネーター・サブコーディネーター

包主・包福・包保・包看・包事・包予=地域包括支援センター主任介護支援専門員・社会福祉士・保健師・看護師・事務職・予防プランナー

生コ=生活支援コーディネーター

20	Ayamu操作基礎研修	Ayamuの目的、操作方法、機能	横浜市	1名 瀧澤(生コ)
21	認知症対応型サービス事業管理者研修	地域密着型サービス基準、取り組み、適切なサービスのあり方	神奈川県	1名 佐川(デ介)
22	教えてDr.脱水症、熱中症	脱水症について、熱中症について	神奈川県医師会	1名 山崎(居介)
23	精神保健福祉基礎研修	発達障がい、パーソナリティ障がい、依存症	株式会社日本総合研究所	1名 有我(居介)
24	生活支援・主CM連絡会	言語聴覚士による訪問リハビリ、フォーマルサービスについて	ケアプラザ主催	1名 青山(居介)
25	福祉現場におけるWEB会議ツール入門	ZOOMについて、基礎を学ぶ	横浜市社協	1名 青山(居介)
26	介護支援専門員研修のための演習助言者養成研修	ファシリテーターの役割について	横浜市社協	1名 青山(居介)
27	介護支援専門員研修のための演習助言者養成研修2	ファシリテーターの役割について2	横浜市社協	1名 青山(居介)
28	職場におけるハラスメント	関係指針(ハラスメント)	自主研修	1名 渡邊(包主)
29	生活支援・ケアマネージャー連絡会研修会	言語聴覚士による訪問リハビリを学ぶ	自主事業	1名 葛西(所長)
30	リーダーシップ基礎研修	リーダーとは何か?求められる能力を学ぶ	横浜市社協	1名 青山(居介)
31	コーディネーター共通研修(応用編)	コロナ禍におけるソーシャルワークと地域福祉活動	横浜市社協	1名 小林(地コ)
32	ケアマネット戸塚193回定例会	行政サービス全般	ケアマネット戸塚	1名 青山(居介)
33	福祉用具貸与、適正利用事業講習	点検事業の説明、事例報告	横浜市	1名 山崎(居介)
34	中堅職のためのリスクマネジメント研修	リスクマネジメント、事故再発防止	横浜市社協	1名 山本(デ介)
37	いきがい助け合いサミットin神奈川	ボランティア活動をどう広げるか?	さわやか財団	1名 瀧澤(生コ)
38	生活CO研修 応用コース	支え合いのまちづくり、住民のチカラ	横浜市	1名 瀧澤(生コ)
39	戸塚区地域施設間連携促進事業	ICTを利用した事例について	戸塚区	1名 小林(地コ)
40	ハラスメント対策セミナー	パワハラとカスタマーハラスメントについて	介護労働安定センター	1名 内野(デ相)

<別表3>研修

デ介・デ相・デ看・デ調＝デイサービス介護職員・生活相談員・看護職員・調理職員

居介＝居宅介護支援事業所介護支援専門員

地コ・地サ＝地域交流コーディネーター・サブコーディネーター

包主・包福・包保・包看・包事・包予＝地域包括支援センター主任介護支援専門員・社会福祉士・保健師・看護師・事務職・予防プランナー

生コ＝生活支援コーディネーター

41	高齢者虐待の防止について	高齢者虐待防止法における養介護施設者の責務	横浜市社協	1名 奥山(デ相)
42	ひきこもりと基礎的理解とひきこもる人の気持ち	ひきこもり支援の手段と目的とは	横浜市健康福祉局	1名 小林(地コ)
43	今こそ聞きたいSDGsの基礎	SDGsの基礎知識について	横浜市社協	1名 瀧澤(生コ)
44	横浜シニアボランティア登録研修会	よこはまシニアポイント事業について	横浜市健康福祉局	1名 瀧澤(生コ)
45	ひきこもり支援研修	ひきこもりの基礎的理解とひきこもる人の気持ち	横浜市健康福祉局	1名 小林(地コ)
46	戸塚区地区包括ケアシステム	地区包括ケアシステム検討会	戸塚区	1名 瀧澤(生コ)
47	職場内研修	ハラスメント研修	原宿ケアプラザ	1名 小林(地コ)
48	生活支援コーディネーター研修会	住民主体の地域づくり	横浜市社協	1名 瀧澤(生コ)
49	生活支援コーディネーター研修会	住民主体の地域支援とは	横浜市社協	1名 瀧澤(生コ)
50	介護リハビリ研究会	認知症患者と暮らす(主治医として家族として)	介護リハビリ研究会	1名 葛西(所長)
51	BCP作成WEBセミナー	ハザードマップの種類別の見方	(株)トーカイ	1名 山崎(居介)
52	福祉BCPの必要性と作成方法	首都圏直下型地震への備え、安全バイアスについて	NPO法人日本防災環境	1名 葛西(所長)
53	認知症の理解と支援	本人、家族へ寄り添う事について	横浜市社協	1名 関(デ介)
54	虐待防止への取り組み	高齢者虐待の定義、考え方	介護労働安定センター	1名 内野(デ相)
55	新職員オリエンテーション	聖母会の歩み、規定等	聖母の園	1名 沼崎(デ介)
56	初任者のためのストレス対策研修	ストレスとは何か？ストレスの分析と対策	横浜市社協	1名 金岩(デ介)
57	ケアマネ向け「最新！厚労省＆先進的居宅から生配信」	ケアプラン標準様式、記載要領の改正内容の説明	E-LITE他10社共催	1名 青山(居介)
58	ハラスメント研修	ハラスメント研修の定義と背景	神奈川県	1名 青山(居介)
59	介護支援専門員研修	専門研修課程 I	神奈川県	1名 山崎(居介)

<別表3>研修

デ介・デ相・デ看・デ調＝デイサービス介護職員・生活相談員・看護職員・調理職員

居介＝居宅介護支援事業所介護支援専門員

地コ・地サ＝地域交流コーディネーター・サブコーディネーター

包主・包福・包保・包看・包事・包予＝地域包括支援センター主任介護支援専門員・社会福祉士・保健師・看護師・事務職・予防プランナー

生コ＝生活支援コーディネーター

60	認知症介護基礎研修	認知症の基礎知識・対応技術の理解	横浜市	1名 関(デ介)
61	第3回地域共生社会推進全国サミットin鎌倉	安全安心はデジタル社会の創成等	鎌倉市	1名 瀧澤(生コ)
62	戸塚区在宅医療相談室主催 第32回事例検討会	認知症の基礎知識・対応技術の理解	戸塚区医師会	1名 葛西(所長)
63	第3回地域共生社会推進全国サミットin鎌倉	SOSの声とつながり 社会的孤立を防ぐためには	鎌倉市	1名 瀧澤(生コ)
64	令和3年度 生活支援CO研修共通	地域課題の気づきと実績	神奈川県社協	1名 瀧澤(生コ)
65	生活支援CO共通研修基礎編	市計画、区計画、地区計画の関連性	横浜市社協	1名 瀧澤(生コ)
66	ユマニチュード	高齢化と認知症、ユマニチュードとは	横浜市	1名 福島(デ介)
67	人材確保支援セミナー「採用と定着のための特別講習」	プランディング強化とマーケティング、目指そう職員満足度UP	横浜市社協	1名 奥山(デ相)
68	問題解決力向上研修	職場内の問題・課題への向き合い方	横浜市社協	1名 太田裕(デ介)
69	適切なケアマネジメント手法の手引き	適切なケアマネジメント手法の手引き	(株)日本総合研究所	1名 有我(居介)
70	ゴミ問題を抱える人への支援を考える	ゴミ屋敷の解消、条例、支援のポイント	横浜市健康福祉局	1名 山崎(居介)
71	適切なケアマネジメント手法の手引き	適切なケアマネジメント手法の手引き	(株)日本総合研究	1名 山崎(居介)
72	ケアマネット戸塚第195回定例会	感染対策について	ケアマネット戸塚	1名 青山(居介)
73	令和3年度 第2回戸塚区地域包括ケアシステム検討会	戸塚区アクションプランの素案について	横浜市都市整備局	1名 瀧澤(生コ)
74	令和3年度 地域まちづくり支援制度活用研修	空き家の地域活用について	横浜市まちづくり課	1名 瀧澤(生コ)
75	生活支援CO研究研修	ヤングケアラーへの支援	神奈川県社協	1名 瀧澤(生コ)
76	高齢期の知的障がいのある方への関わり	知的障害者の現状等	横浜市社会福祉協議会	1名 俵山(地コ)
77	引きこもり支援研修	家族の気持ちと家族支援の重要性	(株)日本総合研究所	1名 有我(居介)
78	在宅で用いられる医療機器	在宅医療機器の使用方法を学ぶ	介護リハビリ研究会	1名 有我(居介)

<別表3>研修

デ介・デ相・デ看・デ調=デイサービス介護職員・生活相談員・看護職員・調理職員

居介=居宅介護支援事業所介護支援専門員

地コ・地サ=地域交流コーディネーター・サブコーディネーター

包主・包福・包保・包看・包事・包予=地域包括支援センター主任介護支援専門員・社会福祉士・保健師・看護師・事務職・予防プランナー

生コ=生活支援コーディネーター

79	生活支援体制整備 の役割	生活COの役割	神奈川県社協	1名 瀧澤(生コ)
80	チームリーダーのための人材育成	組織に求められるチームリーダーの役割	横浜市社協	1名 江藤(デ介)
81	自閉症の方へのかかわり	自閉スペクトラム症特性等	横浜市社協	1名 北村(地コ)
82	生活支援CO研修	精神疾患をもつ方々への支援	横浜市社協	1名 瀧澤(生コ)
83	生活支援CO研修	地域アセスメント(1/24の研修の延期分)	横浜市社協	1名 瀧澤(生コ)
84	戸塚区セーフティーネット会議	8050問題に「おけるチームアプローチについて	戸塚区	1名 小林(地コ)
85	新任・就労予定ケアマネージャー研修	ケアマネの心構え、倫理、インフォーマルサービス	戸塚区内地域包括支援センター主任ケアマネージャー連絡会	1名 山崎(居介)
86	横浜市のこども居場所づくりセミナー	現代地域社会におけるつながりの現状	横浜市子ども青少年企画調整課	1名 小林(地コ)
87	「今どき」の子どものはなし	今どきのこどものこころ・いじめ・非行・発達障がいをか	戸塚区子育てサポート連絡会	1名 小林(地コ)
88	生活支援CO連絡会	ぐるーぶちえのわ共通研修	ぐるーぶちえのわ	1名 瀧澤(生コ)
89	コーディネーター共通研修	包括ケア体制の必要性	横浜市社協	1名 小林(地コ)
90	地域交流CO事例検討会	地域活動交流でできる障がい者余暇支援とは?	横浜市社協	1名 小林(地コ)
91	若者相談支援スキルアップ研修	自殺につながる不安の理解と認知行動療法	横浜市子ども青少年局	1名 小林(地コ)
92	生活支援CO共通研修	居場所の持つ機能	横浜市健康福祉局	1名 瀧澤(生コ)

# 令和3年度 自主事業報告書

## 横浜市原宿地域ケアプラザ

## (地域交流)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
主催 傾聴ボランティア養成講座	地域住民対象 高齢者等の個人宅や施設訪問を目的とした傾聴ボランティア養成講座を計画し、カリキュラムに認知症サポーター養成講座を組み入れていく予定だったが、コロナウイルスの感染拡大を受け中止となる。現在傾聴活動は現在施設1件、個人宅4件お受けしている。	中止
主催 あったまり場	こころの病のある方、家族、地域住民対象 第4月曜日実施。 今年度は懇談を中心としたプログラムとして開催。	毎月第4月曜日 12回
共催 子育て連絡会	保育園、主任児童委員、子育て支援拠点、区役所、子育てサークル、子育て支援者、高齢者施設等対象 今年度は2回の子育て連絡会をICT（オンラインを活用）にて実施。コロナ禍でも親子で出かけられるお散歩MAP作りを進めている。昨年度は公園あそびを大正地区で2回実施。 (9月27日は緊急事態宣言発出の為中止) 延べ24名の親子の参加を頂き少しずつではあるが活動が広がってきている。また、コロナ禍において改めて外遊びの重要性を感じている。 来年度は3回の公園あそびを予定している。	10月7日 10月26日 計 2回
主催 障がい学習会 「地域であたり前に豊かに暮らしていくために」	障害のある子どもの保護者同士の情報交換や研修を通し、地域に必要とするサービスなどの開発や関係機関とのネットワーク作りにつなげることが目的。 (まん延防止等重点措置発出期間中の為2月は中止) 不定期開催。 ぐるーぷちえのわ共催。 「地域で暮らす」や、「授産所の役割について」について外部講師を招き講座を実施し、延べ31名の方が参加した。	5月14日 12月2日 計 2回
共催 ボランティア総会	聖母の園、横浜市原宿地域ケアプラザ、横浜市深谷俣野地域ケアプラザで活動するボランティア対象 (コロナウイルス感染症拡大防止の為中止)	中止

# 令和3年度 自主事業報告書

## 横浜市原宿地域ケアプラザ

## (地域交流)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
スマホ教室	地域のニーズを把握し令和2年度から地元の企業の協力を仰ぎ開催し、令和3年度は新たにリビングラボと連携し実施。高齢者の方のデジタルデバイドの解消と情報リテラシーを高めていくことを目的としている。令和3年度は全10回の連続講座を実施し、延べ114名参加。次年度も引き続き実施予定。	10月2日・9日・16日・30日・11月6日・13日・20日・27日・12月4日・11日 全 10回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
主催 おしゃべり カフェ	地域住民の居場所の1つとして、平成30年度からケアプラザにてカフェをオープンした。 新たなボランティアの担い手を創出させる狙い。 計1回実施し延べ22名の方が参加した。 (コロナウイルス感染症拡大防止の為4月～11月、1月～3月は中止)	12月2日  全1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
後方支援 原宿フリー マーケット	原宿商店街主催のフリーマーケット。多世代の交流と地域の活性化。  コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	中止

事業名	目的・内容	実施時期・回数
共催 大正プロジェク ト	近隣小学校の個別支援級に在籍する子どもたちの放課後の活動支援と地域住民に向けた障害の理解や住民同士の交流今年度は近隣のスポーツジムに講師の依頼を行い開催。また地域ボランティアの協力のもと、エアロビ、風船バレー、けん玉などのプログラムを実施。 (コロナウイルス感染症拡大防止の為9月、10月、1月は中止)	4月30日 5月26日 6月23日 11月24日  計 4回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
共催 父親育児講座	ダブルケア（父親の育児参加）の一環として父親育児講座を計画(子育てははじめの一步)を、まん延防止等重点措置発出期間中ではあったが、ICT(オンライン講座)を活用し開催。父親同士での情報共有できる貴重な場となった。	2月5日  計 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
主催 うたごえサロン	地域の居場所の一つとして新たに月1回の歌の会を令和元年10月から開催。 地域の方より新たな歌の会を立ち上げていただきたいとの要望もあり、実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け開催できなかった。 令和3年度をもって一旦閉会とすることとなった。	中止



# 令和3年度 自主事業報告書

## 横浜市原宿地域ケアプラザ

## (地域交流)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
共催 たいしょう食堂	子どもから高齢者までどなたでも参加できる食堂を令和元年度から地区センターを会場として開催していたが、コロナウイルス感染症拡大防止の為食堂としての活動は出来なかった為、食品配布会へ形を変えて開催。合計で4回、延べ434名の参加。 (次年度以降感染状況を踏まえながら食堂の再開を目指していく)	6月13日 9月12日 12月12日 3月21日  全4回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
共催 にこにこフリーマーケット	地域の子どもを中心としたフリーマーケットの開催を通じ、母親同士の交流、地域の公共施設の役割などを知っていただくことを目的として、令和3年7月実施し、出店者20組、約200名の参加者。 次年度以降も年2回程度開催予定。	7月25日

# 令和3年度 自主事業報告書

横浜市原宿地域ケアプラザ

(地域包括支援センター)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護予防講座 いきいき健康体操	地域への介護予防普及啓発を目的として「ロコモ予防」「口腔機能向上」「栄養」の講座を計5回開催した。	7月15日 7月22日 8月19日 8月26日 9月16日 全5回
共催 楽しくトレーニングしよう会	保健活動推進員と共催で、脳トレーニングと体操（ハマトレ、はまちゃん体操）を地域の高齢者に向けて開催した。体操講師として、はまちゃん体操普及員とハマトレリーダー養成講座終了者に指導をして頂いた。11月には認知症予防の音楽療法も併せて開催。「新型コロナウイルス」感染症拡大防止のため8～9月、1月～3月は中止。	毎月1回 第4日曜日 全7回
健康講座 「認知症の初期症状への対応」	地域住民の認知症の正しい知識、初期症状への正しい対応方法についての理解を深めるため、協力医による講座を開催した。	10月28日
元気づくり ステーション 「こすずめ健康ライフ」	身近な場所での介護予防活動の存続を目的として、地域の会場で行われている体操、脳トレ等の後方支援を区役所と協働し行った。	毎月2回 第2・4月曜日 全24回
さざん花の会	地域の会場で行われている介護予防活動グループが自主的な活動が継続できるよう支援を行った。「新型コロナウイルス」感染拡大防止のため4月～5月、1月～3月は中止	毎月2回 第2、4火曜日 全11回
介護予防講座 ADL体操でからだメンテナンス講座	ケアプラザで活動しているが、参加者が減少している高齢者体操教室グループに対し、継続意欲の維持及び、新規参加者の取り込みを目的として講座を開催した。	4月5日 4月12日 4月26日 5月10日 5月24日 全5回

# 令和3年度 自主事業報告書

## 横浜市原宿地域ケアプラザ

## (地域包括支援センター)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
元気づくり ステーション GOGO健康クラブ	身近な場所での介護予防活動の存続を目的として、地域の会場で行われている体操、脳トレ等の活動グループに対して後方支援を行った。 「新型コロナウイルス」感染拡大防止のため4～9月、1～3月は中止。	月2回 第2・4水曜日 全7回
介護リハビリ研 究会開催 後方支援	持続的開催に向けた後方支援として、事務局業務を実施。開催通知配信や会場機器設定ほか資料の印刷などを実施。多職種連携の推進に繋がった。 年10回の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため6回の実施となった。11月はケアプラザの機能と役割について研修会を実施した。	6回
ケアマネット 戸塚 後方支援 戸塚区主任cm連 絡会	コロナ禍ではあるが、研修方法を検討し、定例会を4回開催できた。1年ぶりの定例会は制度の理解や医療に関する内容など、身近なニーズの企画で行われた。参加者も一年ぶりの再開に意欲的に学ぶことができたが、新しいオンライン方式に馴染めない方もいた。また参加した会員からのリアクションシートからは、多彩な意見が上がり、今後の定例会等に繋がる意見も多数あった。	4回
共催 原宿コグニサイ ズの会	原宿コグニサイズの会と共催で、地域の高齢者を対象に、認知症予防を目的として「コグニサイズ」の講習を行った。 「新型コロナウイルス」感染拡大防止のため8～9月、2～3月は中止。	毎月1回 第2土曜日 全8回
共催 GOGO体操	介護予防普及啓発事業で行った講座のOB会として、令和2年度より活動をスタートした。 会との共催により、体操講師によるストレッチ・筋力トレーニングを中心とした運動を実施。 「新型コロナウイルス」感染拡大防止のため1～2月は活動を中止した。	毎月2回 第2・4火曜日 全22回
ケアマネジャー 事業所訪問事業	居宅介護支援事業所の訪問はコロナウイルス感染予防のため実施できない時期もあったが、電話を活用してケアマネジャーと連絡を取り合い、抱える課題等を共有した。 課題解決に向け居宅介護支援事業所連絡会で研修会を開催し、資質向上の支援を行うことができた。	定期的

# 令和3年度 自主事業報告書

横浜市原宿地域ケアプラザ

(地域包括支援センター)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
医療連携研修 戸塚区主任cm連絡会	アンケート回収結果では大変有意義だった。有意義だった。とケアマネ49名からの回答があった。講師よりの戸塚区の現状の説明、看取りに関する社会資源、看取り期の具体的な在宅医療の流れ、多職種連携、人生会議など多岐にわたりわかりやすい話で勉強になったとの感想が多く寄せられた。講義の内容で、ケアマネとして医療との連携が重要との学びやケアマネや多職種も医療職同様にご本人の意向に沿った本人の尊厳を実現する支援の大切さを認識し、成果のある研修の開催ができた。	12月
居宅主マネ研修 戸塚区主任cm連絡会	戸塚区の居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャー33名が参加し、自身の職種、事業所の役割、求められている背景の理解と再認識することができた。個別スーパービジョンの演習を通して、事業所内の教育や参加者自身のスキルアップに繋げる事が出来た。	7月
ヘルパネット 後方支援 戸塚区主任cm連絡会	コロナ禍で活動が停滞しているが開催できていない令和2年度と3年度の総会の予定を1月に計画し準備を行っていたがコロナ感染の拡大で中止となった。基調講演の講師選択や内容について助言を行った。会員としての事業所を募集し、会費を集め活動を活性化したいという幹事会の趣旨を理解し、チラシの作成の助言、それぞれの包括エリアの事業所への配布の支援など、後方支援の役割を果たした。	4回
居宅介護支援事業所連絡会・研修会	8月、2月の年2回企画した。エリアの居宅介護支援事業所のケアマネジャーに対して参加を呼びかけた。 7月は地域のインフォーマルサービスを取り入れられるよう情報を共有した。「言語聴覚士による訪問リハビリを学ぶ」をテーマに研修実施。6事業所14名のケアマネジャーが参加した。 2月は協力医による「認知症について」の研修を民生委員と合同開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大中のため中止した。	1回
ほーめっと 後方支援 戸塚区主任cm連絡会事業	月に1回の定例幹事会では運営についての協議や多職種での情報交換等を行なった。 また市民講座では受付を含み運営も主マネ連絡会として協力した。	5回

# 令和3年度 自主事業報告書

横浜市原宿地域ケアプラザ

(地域包括支援センター)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
栄養講座	地域への介護予防普及啓発を目的として、株式会社明治に出張講座を依頼し栄養講座を開催した。	12月2日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
知っ得講座（エンディングノート編）	エンディングノートの必要性や書き方を2日間にわたり周知することで、地域の高齢者が安心して生活ができるような一助とすることを目的に講座の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	
事業名	目的・内容	実施時期・回数
知っ得講座（生活を守る！成年後見制度編）	成年後見制度の普及に力を入れている専門職に講師を依頼し同制度を利用するメリットなどを周知する目的で講座開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。	
事業名	目的・内容	実施時期・回数
よつばの会 講習会	介護者の集いである「よつばの会」において、会員の要望を反映させたテーマでの講習会を年1回開催し、介護や日常生活の中で役立ててもらおう。  実施日：10/22 場所：原宿地域ケアプラザ 内容：「高齢者の認知症対策、安心の準備について」というテーマで、司法書士を講師に招き講習会を開催した。高齢者にとって認知症に対する不安は大きく、もしもに備えることで今後の暮らしに安心とゆとりをもたらすきっかけとなった。参加者からも質問があり、自身が認知症になる前に今できることの準備の大切さを認識してもらうことができた。	10月22日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護予防講座 ノルディック ウォーキング講座	ロコモティブシンドローム予防の目的でノルディックウォーキング講座を開催した。	4月7日 5月5日 6月2日 7月7日 全4回
事業名	目的・内容	実施時期・回数
共催 脳を鍛える ウォーキング講座	認知症予防を目的としたウォーキング講座を区役所と共催で4回開催した。	4月22日 5月13日 5月20日 5月27日 全4回

## 令和3年度 自主事業報告書

### 横浜市原宿地域ケアプラザ

### (生活支援)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
よこはまシニアボランティア登録研修会	元気な高齢者が地域の介護施設等でボランティア活動を行うことにより、ご本人の健康維持と介護予防、社会参加・地域貢献を通じた「生きがいつくり」を促進するとともに、これからの介護施設等の地域とのつながりの深まりや施設利用者の生活をより豊かにすること。登録研修会を行うとともに、近隣の高齢者ボランティアの受入施設の職員にも参加をして頂き、施設や具体的なボランティア活動について紹介してもらい、より身近に感じてもらえる働きかけを行う。 ※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	中止
令和3年度生活支援体制整備事業協議体【南戸塚台】	地域情報や課題の把握、地域づくりにおける意識の統一、新たなサービス創出が目的。地域交流サロンの開催に向けて、役割分担や実施方法について検討会を実施。今年度は検討会を1回実施。	12月23日
令和3年度生活支援体制整備事業協議体【小雀ちよぼら】	地域情報や課題の把握、地域づくりにおける意識の統一、新たなサービス創出が目的。小雀町内会とハートケア横浜小雀、ケアプラザで検討会を実施予定。今年度中に1回程度。 ※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	中止
頑張るシニアの元気UP健康サロン	町内会（影取・東俣野）とともに、近隣施設や事業者等の協力を得ながら、健康講座とサロンを開催する。定期的に外出する機会を確保し、健康に関する講座を実施。 【テーマ】知っておこう自分の身体、地域ケアプラザの役割・介護保険の申請について、薬の基礎知識と薬局の活用方法、楽しく食べて健康に、お医者さんとの話し方にはコツがある、気持ちのいいスタイル実践編 ※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	中止
森のカフェこすずめ	小雀町内会は町内会活動や敬友会活動が活発に行われており、他の活動も町内会役員が活動を支援されている。現在の活動に加え、今まで実施していなかったカフェを行い、地域活動に参加されていなかった方々の掘り起こしを行う。	11月19日 12月17日 1月21日

## 令和3年度 自主事業報告書

### 横浜市原宿地域ケアプラザ

### (生活支援)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
令和3年度生活支援交流会・居宅介護事業所連絡会	地域のケアマネジャーを対象に『言語聴覚士による訪問リハビリを学ぶ』講座を行い在宅生活を継続するための情報をお伝えする。 ※令和4年2月24日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	8月23日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア情報交換会	シニアボランティア登録研修会終了者及び施設見学会参加者のOB会として、ボランティア活動を継続するための意見交換会。 コロナ禍におけるモチベーションの維持、参加者の活動報告、ボランティア活動を継続するための勉強会、有償ボランティアについての情報交換などを実施。	5月10日 7月5日 11月1日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
知っ得講座	少しでも安心した老後を迎えることを大きな目的とし、知っておくと役に立つ情報を講座として開催する。 エンディングノートについて、介護保険制度について、福祉用具について、エンディングノート(2回目)、成年後見制度 ※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	中止

事業名	目的・内容	実施時期・回数
高齢者ボランティア受入施設連絡会	ボランティアの受入体制や活動状況、活動団体等について情報交換・共有を行い、ボランティア活動等を通して施設として行っている取り組みを共有する。また、登録研修会を通して地域の方々に発信していく。 ※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	中止

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
携帯電話講座【スマホをお持ちでない方向け】	様々な情報がスマホを通して得られる時代の中で、高齢者の皆様に向けて、まずはスマホに触れ、知って頂く機会をつくる。スマホに触れてみる機会の創出とメールや写真等、簡単なアプリ操作の実施。月に1回程度実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により中止。	中止

事業名	目的・内容	実施時期・回数
携帯電話講座【スマホ初心者向け】	様々な情報がスマホを通して得られる時代の中で、高齢者の皆様に向けて、まずはスマホに慣れて頂く機会をつくる。スマホを購入したが使い方が解らず、不慣れな方向けに少人数で基本的な使い方をお伝えする。月に1回程度実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により中止。	中止

## 令和3年度 自主事業報告書

### 横浜市原宿地域ケアプラザ

### (生活支援)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
お医者さんとの 上手な話し方	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、病院との関わり（医師等）を含め、地域の方々に周知をしていきたい。お医者さんと上手に話をするコツについて、講義を頂く予定であったが、緊急事態宣言発令期間中であるため中止とした。	中止
事業名	目的・内容	実施時期・回数
令和3年度 生活支援体制整備 事業協議体 【ぐるーぷちえ のわ】	ぐるーぷちえのわが行っている活動をより地域に根差したものにしていきたい。具体的にはプログラムの検討や活動の周知。令和4年度のサービスB補助事業申請に向けて適宜検討会を実施。	10月4日 12月3日 2月13日



〈別表5〉

地域包括支援センター 令和3年度相談受付の傾向

令和3年度も、新型コロナウイルスのまん延防止対策が実施される中での相談受付業務となりました。

様々な活動が制限される中で、地域包括支援センターの相談受付件数も昨年度に引き続き減少しました。

以下に直近4年間（平成30年度～令和3年度の相談件数および相談内容の推移を掲載します。

減少傾向は継続しているものの、前年比減少率は昨年度より小さく、減少傾向に歯止めがかかっているようにも思われます。

今年度の特徴として、次のようなことが挙げられます。

- ・相談対象者（属性）のうち、高齢者のみの世帯が増加した。（前年比120%）
- ・本人、家族からの相談は減少したが、居宅サービス事業者や民生委員からの相談は増加している。
- ・相談内容は介護保険、認知症関連、日常生活課題についての件数が増加に転じた。

平成30年度から令和3年度の相談内容の推移（抜粋）

	相談件数	対象者			相談者			相談内容					
		認知症	独居	高齢者世帯	本人	家族	民生委員	介護保険	認知症	入所入院	日常生活	成年後見	虐待
H30年度	2255	315	683	596	884	1281	61	1370	100	160	697	148	35
R1年度	2156	465	757	580	725	1128	64	1473	118	142	706	272	32
R2年度	1794	399	636	530	577	931	61	1205	93	94	568	75	26
R3年度	1754	363	590	640	571	913	65	1281	109	87	677	40	11

包括支援センターの相談員が日常業務で対応した印象としては、昨年度に引き続き高齢者の行動が自粛された影響で運動量が低下し、体力・筋力の低下が多くみられるということです。

上の表には反映されていませんが、身体状況の衰えのため介護保険の区分変更の相談が増え、その結果、介護度が上がった利用者が多かったと感じられます。

今後もしばらくは、このような傾向が続くことが懸念されます。

## 令和3年度 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント実績

【単位：人】

《給付管理合計者数》					
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	
要支援1	354	323	298	301	
要支援2	386	392	387	388	
合計	740	715	685	689	2,829
昨年度合計 (比較データ)	692	722	753	721	2,888

【単位：人】

《新規契約合計者数》					
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	
要支援1	13	8	11	14	
要支援2	14	11	12	11	
合計	27	19	23	25	94
昨年度合計 (比較データ)	15	17	27	18	77

<別表7>

令和3年度 居宅介護支援事業実績

《令和3年度利用者契約者数（四半期別）》

【単位：人】【単位：人】

\*令和2年度は四半期の最終月の数値を掲載してました。今回から実績の合計を掲載してます

	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	合計	前年比
要支援1・2	79	74	58	47	258	-3
要介護1	79	86	95	98	358	-6
要介護2	119	130	135	135	519	+81
要介護3	21	22	23	22	88	-20
要介護4	23	34	44	50	151	+24
要介護5	14	16	20	23	73	+9
合計	335	362	375	375	1447	+85

《介護認定調査業務》 ( )内は区外

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
4	5	12 (1)	4	7	4
10月	11月	12月	1月	2月	3月
5	6	2	5	9	6

合計 38

<別表 8 >

●通所介護事業実績

《令和3年度利用者実績（延べ人数）》

【単位：人】 【単位：%】

	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	合計	前年比
要介護1	546	497	421	353	1,817	111%
要介護2	809	863	843	844	3,359	118%
要介護3	472	437	376	235	1,520	76%
要介護4	231	216	234	171	852	97%
要介護5	312	282	294	277	1,165	128%
合計	2,370	2,295	2,168	1,880	8,713	105%

《利用者実績（延べ人数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
748	814	808	784	750	761
10月	11月	12月	1月	2月	3月
745	755	668	609	589	682

●横浜市通所介護相当サービス実績

《令和3年度利用者実績（延べ人数）》

【単位：人】 【単位：%】

	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	合計	前年比
要支援1	116	110	77	58	361	82%
要支援2	190	172	167	130	659	79%
合計	306	282	244	212	1,020	80%

《利用者実績（延べ人数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
94	106	106	102	96	84
10月	11月	12月	1月	2月	3月
85	88	71	62	59	67

<別表 8>

●出席者状況（4半期毎）

項目／月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	合計
定員数 (総合含)	3,120	3,160	3,040	3,000	12,320 (人)
出席者 (通所) (総合含)	2,370	2,295	2,168	1,880	8,713 (人)
	306	282	244	188	1,020 (人)
出席率 (総合含)	85.7	81.5	79.3	69.7	79.1 (%)
入浴 (通所) (総合含)	1,857	1,858	1,782	1,547	7,044 (人)
	186	156	157	134	633 (人)
食事 (通所) (総合含)	2,354	2,287	2,163	1,864	8,668 (食)
	306	282	244	188	1,020 (食)
1日平均人数 (総合含)	34.3	32.6	31.7	27.5	31.6 (人) (年平均)
稼働日数	78	79	76	75	308 (日)

<以上>

公益事業 原宿地域ケアプラザ拠点区分 資金収支計算書

第一号第四様式

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考	
収入	介護保険事業収入	11,580,000	11,721,191	△	141,191	
	居宅介護支援介護料収入	6,234,000	6,288,710	△	54,710	
	介護予防支援介護料収入	6,234,000	6,288,710	△	54,710	
	介護予防・日常生活支援総合事業収入	5,336,000	5,422,481	△	86,481	
	事業費収入	5,336,000	5,422,481	△	86,481	
	その他の事業収入	10,000	10,000		0	
	補助金事業収入(公費)	10,000	10,000		0	
	地域包括支援センター収入	51,849,000	51,844,770		4,230	
	地域包括支援センター収入	51,756,000	51,751,270		4,730	
	地域包括支援センター収入	51,756,000	51,751,270		4,730	
	その他の事業収入	93,000	93,500	△	500	
	受託事業収入(公費)	93,000	93,500	△	500	
	その他の収入	52,000	51,254		746	
	雑収入	52,000	51,254		746	
	その他雑収入	52,000	51,254		746	
	事業活動収入計(1)	63,481,000	63,617,215	△	136,215	
	事業活動による支出	人件費支出	41,982,000	41,792,326		189,674
		職員給料支出	22,271,000	22,172,556		98,444
		職員俸給支出	17,357,000	17,356,212		788
		管理職手当支出	139,000	137,340		1,660
主任手当支出		180,000	180,000		0	
特殊業務手当支出		604,000	602,688		1,312	
職務手当支出		720,000	720,000		0	
扶養手当支出		1,260,000	1,260,000		0	
住居手当支出		780,000	780,000		0	
時間外手当支出		353,000	260,184		92,816	
通勤手当支出		878,000	876,132		1,868	
職員賞与支出		5,881,000	5,879,213		1,787	
非常勤職員給与支出		7,685,000	7,604,498		80,502	
有期・無期職員賃金支出		7,378,000	7,302,078		75,922	
有期・無期職員通勤支出		307,000	302,420		4,580	
退職給付支出		869,000	867,750		1,250	
法定福利費支出		5,276,000	5,268,309		7,691	
事業費支出		3,811,000	3,544,665		266,335	
保健衛生費支出		10,000	9,680		320	
水道光熱費支出		3,249,000	3,039,953		209,047	
燃料費支出		40,000	9,630		30,370	
保険料支出		38,000	37,480		520	
賃借料支出		68,000	65,668		2,332	
車輛費支出		21,000	15,040		5,960	
雑支出		385,000	367,214		17,786	
事務費支出		17,070,000	17,197,089	△	127,089	
福利厚生費支出		131,000	129,343		1,657	
旅費交通費支出		43,000	24,650		18,350	
研修研究費支出		26,000	12,730		13,270	
事務消耗品費支出		563,000	481,083		81,917	
印刷製本費支出		199,000	174,282		24,718	
修繕費支出		620,000	617,752		2,248	
通信運搬費支出		861,000	817,913		43,087	
広報費支出		32,000	33,732	△	1,732	
業務委託費支出		10,989,000	11,111,497	△	122,497	
業務委託費支出		10,086,000	10,189,916	△	103,916	
法人内業務委託費支出		903,000	921,581	△	18,581	
手数料支出		265,000	249,052		15,948	
租税公課支出		860,000	1,092,200	△	232,200	
保守料支出		1,850,000	1,846,087		3,913	
渉外費支出	4,000	2,026		1,974		
諸会費支出	24,000	23,542		458		
雑支出	603,000	581,200		21,800		
事業活動支出計(2)	62,863,000	62,534,080		328,920		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	618,000	1,083,135	△	465,135		
施設整備等	収入	0	0		0	
	施設整備等補助金収入	0	0		0	
	施設整備等収入計(4)	0	0		0	
	支出	0	0		0	
固定資産取得支出	0	0		0		
施設整備等支出計(5)	0	0		0		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0	0		0		

(単位：円)

勘 定 科 目		予 算 ( A )	決 算 ( B )	差 異 ( A ) - ( B )	備 考
その 他の 活 動 に よ る 収 入 支 出	事業区分間繰入金収入	3,990,000	3,990,000	0	
	事業区分間繰入金収入	3,990,000	3,990,000	0	
	その他の活動による収入	0	0	0	
	その他の活動収入計 (7)	3,990,000	3,990,000	0	
	積立資産支出	554,000	553,320	680	
	退職給付引当資産支出	554,000	553,320	680	
	その他の活動による支出	0	0	0	
	その他の活動支出計 (8)	554,000	553,320	680	
	その他の活動資金収支差額 (9) = (7) - (8)	3,436,000	3,436,680 Δ	680	
	予備費支出 (10)	0	0	0	
当期資金収支差額合計 (11) = (3) + (6) + (9) - (10)	4,054,000	4,519,815 Δ	465,815		
前期末支払資金残高 (12)	3,975,850	3,975,850	0		
当期末支払資金残高 (11) + (12)	8,029,850	8,495,665 Δ	465,815		

公益事業 原宿地域ケアプラザ拠点区分 事業活動計算書

第二号第四様式

(白) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

(単位：円)

勘定科目		当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A)-(B)
収 益	介護保険事業収益	11,721,191	11,976,322	△ 255,131
	居宅介護支援介護料収益	6,288,710	5,606,088	682,622
	介護予防支援介護料収益	6,288,710	5,606,088	682,622
	介護予防・日常生活支援総合事業収益	5,422,481	6,133,024	△ 710,543
	事業収益	5,422,481	6,133,024	△ 710,543
	その他の事業収益	10,000	237,210	△ 227,210
	補助金事業収益(公費)	10,000	237,210	△ 227,210
	地域包括支援センター収益	51,844,770	49,931,343	1,913,427
	地域包括支援センター収益	51,751,270	49,840,389	1,910,881
	地域包括支援センター収益	51,751,270	49,840,389	1,910,881
	その他の事業収益	93,500	90,954	2,546
受託事業収益(公費)	93,500	90,954	2,546	
サービス活動収益計(1)	63,565,961	61,907,665	1,658,296	
サ ー ビ ス 活 動 増 減 の 部 費 用	人件費	42,337,646	43,106,124	△ 768,478
	職員給料	22,172,556	23,652,678	△ 1,480,122
	職員俸給	17,356,212	18,002,400	△ 646,188
	管理職手当	137,340	364,320	△ 226,980
	主任手当	180,000	180,000	0
	特殊業務手当	602,688	477,216	125,472
	職務手当	720,000	720,000	0
	扶養手当	1,260,000	1,800,000	△ 540,000
	住居手当	780,000	900,000	△ 120,000
	時間外手当	260,184	170,202	89,982
	通勤手当	876,132	1,038,540	△ 162,408
	職員賞与	3,880,213	3,578,800	301,413
	賞与引当金繰入	2,290,000	2,298,000	△ 8,000
	非常勤給与	7,604,498	7,197,670	406,828
	有期・無期職員賃金	7,302,078	6,994,390	307,688
	有期・無期職員通勤費	302,420	203,280	99,140
	退職給付費用	1,421,070	1,455,255	△ 34,185
	法定福利費	4,969,309	4,923,721	45,588
	事業費	3,544,665	3,724,653	△ 179,988
	介護用品費	0	8,000	△ 8,000
	保健衛生費	9,680	237,405	△ 227,725
	水道光熱費	3,039,953	2,999,094	40,859
	燃料費	9,630	0	9,630
	保険料	37,480	57,570	△ 20,090
	賃借料	65,668	51,972	13,696
	車輛費	15,040	85,776	△ 70,736
	雑費	367,214	284,836	82,378
	事務費	17,197,089	16,124,708	1,072,381
	福利厚生費	129,343	151,294	△ 21,951
	旅費交通費	24,650	32,360	△ 7,710
	研修研究費	12,730	62,700	△ 49,970
	事務消耗品費	481,083	373,365	107,718
	印刷製本費	174,282	180,734	△ 6,452
	修繕費	617,752	1,060,890	△ 443,138
	通信運搬費	817,913	691,788	126,125
	広報費	33,732	31,256	2,476
	業務委託費	11,111,497	10,973,405	138,092
	業務委託費	10,189,916	9,630,317	559,599
	法人内業務委託費	921,581	1,343,088	△ 421,507
	手数料	249,052	288,463	△ 39,411
	租税公課	1,092,200	22,200	1,070,000
	保守料	1,846,087	1,732,049	114,038
	渉外費	2,026	3,462	△ 1,436
	諸会費	23,542	23,542	0
	雑費	581,200	497,200	84,000
	減価償却費	119,492	36,966	82,526
	車輛運搬具減価償却費	55,395	18,465	36,930
器具及び備品減価償却費	64,097	18,501	45,596	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 55,395	△ 18,465	△ 36,930	
国庫補助金等積立金取崩額	△ 55,395	△ 18,465	△ 36,930	
サービス活動費用計(2)	63,143,497	62,973,986	169,511	
サービス活動増減差額(3) = (1) - (2)	422,464	1,066,321	1,488,785	



(単位:円)

勘定科目		当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A) - (B)
サービス活動外増減の部	収			
	受取利息配当金収益	0	0	0
	その他のサービス活動外収益	51,254	344,581	△ 293,327
	雑収益	51,254	344,581	△ 293,327
	その他雑収益	51,254	344,581	△ 293,327
	サービス活動外収益計 (4)	51,254	344,581	△ 293,327
	費			
	その他のサービス活動外費用	0	300,000	△ 300,000
	雑損失	0	300,000	△ 300,000
	雑費	0	300,000	△ 300,000
サービス活動外費用計 (5)	0	300,000	△ 300,000	
サービス活動外増減差額 (6) = (4) - (5)	51,254	44,581	6,673	
経常増減差額 (7) = (3) + (6)	473,718	1,021,740	△ 1,495,458	
特別増減の部	収			
	施設整備等補助金収益	0	110,790	△ 110,790
	施設整備等補助金収益	0	110,790	△ 110,790
	事業区分間繰入金収益	3,990,000	3,990,000	0
	特別収益計 (8)	3,990,000	4,100,790	△ 110,790
	費			
	固定資産売却損・処分損	0	2	△ 2
	器具及び備品売却損・処分損	0	2	△ 2
	国庫補助金等特別積立金積立額	0	110,790	△ 110,790
	事業区分間繰入金費用	0	214,931	△ 214,931
特別費用計 (9)	0	325,723	△ 325,723	
特別増減差額 (10) = (8) - (9)	3,990,000	3,775,067	214,933	
予備費	0	0	0	
税引前当期活動増減差額 (11) = (7) + (10)	4,463,718	2,753,327	1,710,391	
法人税、住民税及び事業税 (12)	0	0	0	
過年度法人税等 (13)	0	0	0	
法人税等調整額 (14)	0	0	0	
過年度法人税等調整額 (15)	0	0	0	
当期活動増減差額 (16) = (11) - (12) - (13) - (14) - (15)	4,463,718	2,753,327	1,710,391	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額 (17)	2,102,500	650,827	△ 2,753,327
	当期末繰越活動増減差額 (18) = (16) + (17)	6,566,218	2,102,500	4,463,718
	基本金取崩額 (19)	0	0	0
	その他の積立金取崩額 (20)	0	0	0
	その他の積立金積立額 (21)	0	0	0
	次期繰越活動増減差額 (22) = (18) + (19) + (20) - (21)	6,566,218	2,102,500	4,463,718

## 公益事業 原宿地域ケアプラザ拠点区分 貸借対照表

第三号第四様式

令和4年3月31日現在

(単位:円)

資 産 の 部					負 債 の 部						
	当 度	年 末	前 度	年 末	増 減		当 度	年 末	前 度	年 末	増 減
流動資産	12,869,521		18,088,497		△ 5,218,976	流動負債	6,663,856		16,410,647		△ 9,746,791
現金預金	10,990,131		16,176,835		△ 5,186,704	短期運営資金借入金	0		0		0
事業未収金	1,868,834		1,892,974		△ 24,140	事業未払金	3,155,171		13,932,640		△ 10,777,469
未収金	1,624		9,756		△ 8,132	その他の未払金	0		0		0
未収補助金	0		0		0	1年以内返済予定リース債務	0		0		0
未収収益	0		0		0	未払費用	0		0		0
貯蔵品	0		0		0	預り金	0		0		0
医薬品	0		0		0	職員預り金	0		0		0
診療・療養費等材料	0		0		0	前受金	0		0		0
給食用材料	0		0		0	前受収益	0		0		0
商品・製品	0		0		0	事業区分間借入金	122,915		163,143		△ 40,228
立替金	0		0		0	拠点区分間借入金	8,570		16,864		△ 8,294
前払金	0		0		0	仮受金	0		0		0
前払費用	8,932		8,932		0	未払法人税等	0		0		0
短期貸付金	0		0		0	未払消費税等	1,087,200		0		1,087,200
仮払金	0		0		0	賞与引当金	2,290,000		2,298,000		△ 8,000
その他の流動資産	0		0		0	その他の流動負債	0		0		0
△徴収不能引当金	0		0		0	固定負債	8,126,171		7,673,991		452,180
固定資産	8,523,654		8,190,966		332,688	設備資金借入金	0		0		0
基本財産	0		0		0	長期運営資金借入金	0		0		0
土地	0		0		0	リース債務	0		0		0
建物	0		0		0	退職給付引当金	8,126,171		7,673,991		452,180
定期預金	0		0		0	その他の固定負債	0		0		0
投資有価証券	0		0		0	負債の部合計	14,790,027		24,084,638		△ 9,294,611
その他の固定資産	8,523,654		8,190,966		332,688	純 資 産 の 部					
土地	0		0		0	基本金	0		0		0
建物	0		0		0	国庫補助金等特別積立金	36,930		92,325		△ 55,395
構築物	0		0		0	次期繰越活動増減差額	6,566,218		2,102,500		4,463,718
機械及び装置	0		0		0	(うち当期活動増減差額)	4,463,718		2,753,327		1,710,391
車輛運搬具	36,931		92,326		△ 55,395						
器具及び備品	352,122		416,219		△ 64,097						
建設仮勘定	0		0		0						
有形リース資産	0		0		0						
権利	0		0		0						
ソフトウェア	0		0		0						
無形リース資産	0		0		0						
長期貸付金	0		0		0						
退職給付引当資産	8,126,171		7,673,991		452,180						
長期前払費用	0		0		0						
その他の固定資産	8,430		8,430		0						
資産の部合計	21,393,175		26,279,463		△ 4,886,288	純資産の部合計	6,603,148		2,194,825		4,408,323
						負債及び純資産の部合計	21,393,175		26,279,463		△ 4,886,288

## 介護保険施設 原宿地域ケアプラザ拠点区分 資金収支計算書

第一号第四様式

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収入	介護保険事業収入	134,357,000	134,147,824	209,176	
	居宅介護料収入	94,362,000	93,986,736	375,264	
	(介護報酬収入)	83,420,000	83,001,271	418,729	
	介護報酬収入	83,420,000	83,001,271	418,729	
	(利用者負担金収入)	10,942,000	10,985,465	△ 43,465	
	介護負担金収入(公費)	1,056,000	1,066,912	△ 10,912	
	介護負担金収入(一般)	9,886,000	9,918,553	△ 32,553	
	地域密着型介護料収入	1,834,000	1,892,299	△ 58,299	
	(介護報酬収入)	1,643,000	1,669,545	△ 26,545	
	介護報酬収入	1,643,000	1,669,545	△ 26,545	
	(利用者負担金収入)	191,000	222,754	△ 31,754	
	介護負担金収入(公費)	4,000	4,133	△ 133	
	介護負担金収入(一般)	187,000	218,621	△ 31,621	
	居宅介護支援介護料収入	21,690,000	21,731,890	△ 41,890	
	居宅介護支援介護料収入	20,587,000	20,638,009	△ 51,009	
	介護予防・日常生活支援総合事業収入	1,103,000	1,093,881	9,119	
	介護予防・日常生活支援総合事業収入	6,746,000	6,707,996	38,004	
	事業費収入	6,186,000	6,151,638	34,362	
	事業負担金収入(公費)	34,000	34,590	△ 590	
	事業負担金収入(一般)	526,000	521,768	4,232	
	利用者等利用料収入	8,434,000	8,495,965	△ 61,965	
	食費収入(一般)	7,842,000	7,859,200	△ 17,200	
	その他の利用料収入	592,000	636,765	△ 44,765	
	その他の事業収入	1,291,000	1,332,938	△ 41,938	
	補助金事業収入(公費)	182,000	218,612	△ 36,612	
	受託事業収入(公費)	341,000	350,900	△ 9,900	
	法人内受託収入	768,000	763,426	4,574	
	経常経費寄附金収入	3,000	3,000	0	
	寄附金収入	3,000	3,000	0	
	受取利息配当金収入	0	820	△ 820	
	受取利息配当金収入	0	820	△ 820	
	その他の収入	1,390,000	1,394,338	△ 4,338	
	受入研修費収入	6,000	6,000	0	
受入研修費収入	6,000	6,000	0		
利用者等外給食費収入	986,000	986,750	△ 750		
利用者等外給食費収入	986,000	986,750	△ 750		
雑収入	398,000	401,588	△ 3,588		
退職給付引当資産返還差額収入	333,000	333,976	△ 976		
施設整備使用料収入	0	120	△ 120		
その他雑収入	65,000	67,492	△ 2,492		
事業活動収入計(1)	135,750,000	135,545,982	204,018		
事業活動による支出	人件費支出	98,437,000	97,626,314	810,686	
	職員給料支出	40,179,000	39,725,338	453,662	
	職員俸給支出	30,735,000	30,638,109	96,891	
	管理職手当支出	371,000	369,972	1,028	
	主任手当支出	270,000	269,915	85	
	特殊業務手当支出	873,000	870,593	2,407	
	処遇改善手当支出	2,560,000	2,437,251	122,749	
	扶養手当支出	1,620,000	1,620,000	0	
	住居手当支出	900,000	900,000	0	
	時間外手当支出	1,249,000	1,059,538	189,462	
	その他手当支出	24,000	24,000	0	
	通勤手当支出	1,577,000	1,535,960	41,040	
	職員賞与支出	9,766,000	9,765,307	693	
	非常勤職員給与支出	32,274,000	31,969,351	304,649	
	有期・無期職員賃金支出	31,604,000	31,319,577	284,423	
	有期・無期職員通勤支出	670,000	649,774	20,226	
	派遣職員費支出	920,000	919,605	395	
	退職給付支出	3,904,000	3,904,716	△ 716	
	法定福利費支出	11,394,000	11,341,997	52,003	
	事業費支出	15,170,000	14,714,104	455,896	
給食費支出	6,231,000	6,090,073	140,927		
給食費支出	6,231,000	6,090,073	140,927		
介護用品費支出	15,000	14,080	920		
保健衛生費支出	275,000	136,765	138,235		
被服費支出	1,000	220	780		
教養娯楽費支出	175,000	151,296	23,704		
日用品費支出	42,000	25,490	16,510		
水道光熱費支出	5,278,000	5,237,783	40,217		

(単位：円)

勘 定 科 目		予 算 ( A )	決 算 ( B )	差 異 (A)-(B)	備 考
事業活動による収支	消耗器具備品費支出	577,000	484,894	92,106	
	保険料支出	916,000	914,920	1,080	
	賃借料支出	340,000	337,592	2,408	
	車輛費支出	1,320,000	1,320,991 Δ	991	
	事務費支出	14,046,000	13,364,265	681,735	
	福利厚生費支出	545,000	482,957	62,043	
	職員被服費支出	62,000	61,843	157	
	旅費交通費支出	11,000	4,100	6,900	
	研修研究費支出	203,000	190,780	12,220	
	事務消耗品費支出	597,000	478,920	118,080	
	印刷製本費支出	194,000	176,490	17,510	
	修繕費支出	1,708,000	1,621,294	86,706	
	通信運搬費支出	804,000	761,050	42,950	
	広報費支出	32,000	33,735 Δ	1,735	
	業務委託費支出	3,106,000	3,105,112	888	
	業務委託費支出	1,026,000	1,026,112	888	
	法人内業務委託費支出	2,080,000	2,080,000	0	
	手数料支出	2,711,000	2,661,243	49,757	
	土地・建物賃借料支出	1,320,000	1,320,000	0	
	租税公課支出	429,000	142,568	286,432	
	保守料支出	1,757,000	1,745,121	11,879	
	渉外費支出	42,000	56,710 Δ	14,710	
	諸会費支出	42,000	41,542	458	
雑支出	483,000	480,800	2,200		
利用者負担軽減額	1,000	1	999		
居宅介護料利用者負担軽減額	1,000	1	999		
その他の支出	986,000	986,750 Δ	750		
利用者等外給食費支出	986,000	986,750 Δ	750		
事業活動支出計 (2)	128,640,000	126,691,434	1,948,566		
事業活動資金収支差額 (3) = (1) - (2)	7,110,000	8,854,548 Δ	1,744,548		
施設整備等	収入	0	0	0	
	施設整備等補助金収入	0	0	0	
	施設整備等収入計 (4)	0	0	0	
	支出	2,450,000	2,450,000	0	
	固定資産取得支出	2,450,000	2,450,000	0	
ソフトウェア取得支出	2,450,000	2,450,000	0		
施設整備等支出計 (5)	2,450,000	2,450,000	0		
施設整備等資金収支差額 (6) = (4) - (5)	Δ 2,450,000 Δ	2,450,000	0		
その他の活動による収支	収入	3,995,000	3,995,990 Δ	990	
	積立資産取崩収入	1,545,000	1,545,990 Δ	990	
	退職給付引当資産取崩収入	2,450,000	2,450,000	0	
	介護施設繰越積立資産取崩収入	2,450,000	2,450,000	0	
	備品等購入積立資産取崩収入	0	0	0	
	その他の活動による収入	0	0	0	
	その他の活動収入計 (7)	3,995,000	3,995,990 Δ	990	
	支出	2,996,000	3,990,305 Δ	994,305	
	積立資産支出	996,000	990,305	5,695	
	退職給付引当資産支出	2,000,000	3,000,000 Δ	1,000,000	
介護施設繰越積立資産支出	2,000,000	3,000,000 Δ	1,000,000		
備品等購入積立資産支出	3,990,000	3,990,000	0		
事業区分間繰入金支出	3,990,000	3,990,000	0		
事業区分間繰入金支出	0	0	0		
その他の活動による支出	0	0	0		
その他の活動支出計 (8)	6,986,000	7,980,305 Δ	994,305		
その他の活動資金収支差額 (9) = (7) - (8)	Δ 2,991,000 Δ	3,984,315	993,315		
予備費支出 (10)	0	0	0		
当期資金収支差額合計 (11) = (3) + (6) + (9) - (10)	1,669,000	2,420,233 Δ	751,233		
前期末支払資金残高 (12)	51,202,517	51,202,517	0		
当期末支払資金残高 (11) + (12)	52,871,517	53,622,750 Δ	751,233		

## 介護保険施設 原宿地域777\* 拠点区分 事業活動計算書

第二号第四様式

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

(単位: 円)

勘定科目		当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A) - (B)
収 益	介護保険事業収益	134,147,824	128,321,738	5,826,086
	居宅介護料収益	93,986,736	89,307,241	4,679,495
	(介護報酬収益)	83,001,271	79,108,120	3,893,151
	介護報酬収益	83,001,271	79,108,120	3,893,151
	(利用者負担金収益)	10,985,465	10,199,121	786,344
	介護負担金収益(公費)	1,066,912	956,168	110,744
	介護負担金収益(一般)	9,918,553	9,242,953	675,600
	地域密着型介護料収益	1,892,299	0	1,892,299
	(介護報酬収益)	1,669,545	0	1,669,545
	介護報酬収益	1,669,545	0	1,669,545
	(利用者負担金収益)	222,754	0	222,754
	介護負担金収益(公費)	4,133	0	4,133
	介護負担金収益(一般)	218,621	0	218,621
	居宅介護支援介護料収益	21,731,890	18,715,753	3,016,137
	居宅介護支援介護料収益	20,638,009	17,799,633	2,838,376
	介護予防支援介護料収益	1,093,881	916,120	177,761
	介護予防・日常生活支援総合事業収益	6,707,996	7,680,665	972,669
	事業収益	6,151,638	6,987,083	835,445
	事業負担金収益(公費)	34,590	42,425	7,835
	事業負担金収益(一般)	521,768	651,157	129,389
	利用者等利用料収益	8,495,965	8,886,055	390,090
	食費収益(一般)	7,859,200	7,540,000	319,200
	その他の利用料収益	636,765	1,346,055	709,290
	その他の事業収益	1,332,938	3,732,024	2,399,086
	補助金事業収益(公費)	218,612	2,497,426	2,278,814
	受託事業収益(公費)	350,900	192,500	158,400
	法人内受託収益	763,426	1,042,098	278,672
	経常経費寄附金収益	3,000	3,000	0
	寄附金収益	3,000	3,000	0
	その他の収益	333,976	41,157	292,819
	退職引当資産返還差額収益	333,976	41,157	292,819
	サービス活動収益計(1)	134,484,800	128,365,895	6,118,905
	サ ー ビ ス 活 動 増 減 の 部	人件費	96,570,629	95,133,065
職員給料		39,725,338	36,890,711	2,834,627
職員俸給		30,638,109	29,905,900	732,209
管理職手当		369,972	135,432	234,540
主任手当		269,915	120,000	149,915
特殊業務手当		870,593	996,128	125,535
処遇改善手当		2,437,251	2,136,600	300,651
扶養手当		1,620,000	720,000	900,000
住居手当		900,000	740,000	160,000
宿直手当		0	1,000	1,000
時間外手当		1,059,538	799,467	260,071
その他手当		24,000	24,000	0
通勤手当		1,535,960	1,312,184	223,776
職員賞与		6,157,307	6,147,227	10,080
賞与引当金繰入		3,647,000	4,147,000	500,000
非常勤給与		31,969,351	34,597,796	2,628,445
有期・無期職員賃金		31,319,577	33,888,276	2,568,699
有期・無期職員通勤費		649,774	709,520	59,746
派遣職員費		919,605	0	919,605
退職給付費用		3,349,031	3,151,572	197,459
法定福利費		10,802,997	10,198,759	604,238
事業費		14,714,104	15,258,651	544,547
給食費		6,090,073	6,011,740	78,333
給食費		6,090,073	6,011,740	78,333
介護用品費		14,080	12,045	2,035
保健衛生費		136,765	439,337	302,572
被服費		220	60,000	59,780
教養娯楽費		151,296	166,575	15,279
日用品費		25,490	53,370	27,880
水道光熱費		5,237,783	5,043,437	194,346
消耗器具備品費		484,894	1,098,259	613,365
保険料		914,920	931,330	16,410
賃借料		337,592	343,698	6,106
車輛費	1,320,991	1,085,522	235,469	
雑費	0	13,338	13,338	
事務費	13,364,265	13,164,266	199,999	
福利厚生費	482,957	443,965	38,992	

(単位：円)

勘定科目		当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A) - (B)
サービス活動増減の部	職員被服費	61,843	78,933	△ 17,090
	旅費交通費	4,100	3,360	740
	研修研究費	190,780	73,088	117,692
	事務消耗品費	478,920	888,534	△ 409,614
	印刷製本費	176,490	179,351	△ 2,861
	修繕費	1,621,294	2,326,784	△ 705,490
	通信運搬費	761,050	742,252	18,798
	広報費	33,735	31,261	2,474
	業務委託費	3,105,112	3,105,111	1
	業務委託費	1,025,112	1,025,111	1
	法人内業務委託費	2,080,000	2,080,000	0
	手数料	2,661,243	416,670	2,244,573
	土地・建物賃借料	1,320,000	1,320,000	0
	租税公課	142,568	1,288,800	△ 1,146,232
	保守料	1,745,121	1,763,311	△ 18,190
	渉外費	56,710	49,704	7,006
	諸会費	41,542	38,542	3,000
	雑費	480,800	414,600	66,200
	利用者負担軽減額	1	116,789	△ 116,788
	居宅介護利用者負担軽減額	1	116,789	△ 116,788
	減価償却費	1,727,090	2,271,140	△ 544,050
	建物付属設備減価償却費	71,457	71,269	188
	機械及び装置減価償却費	89,100	89,104	△ 4
	器具及び備品減価償却費	924,040	1,500,812	△ 576,772
	ソフトウェア減価償却費	642,493	609,955	32,538
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 41,148	△ 20,574	△ 20,574
	国庫補助金等積立金取崩額	△ 41,148	△ 20,574	△ 20,574
サービス活動費用計 (2)	126,334,941	125,923,337	411,604	
サービス活動増減差額 (3) = (1) - (2)	8,149,859	2,442,558	5,707,301	
サービス活動外増減の部	受取利息配当金収益	820	2,551	△ 1,731
	その他のサービス活動外収益	1,060,362	3,572,067	△ 2,511,705
	受入研修費収益	6,000	2,000	4,000
	利用者等外給食費収益	986,750	1,249,750	△ 263,000
	雑収益	67,612	2,320,317	△ 2,252,705
	施設整備使用料収益	120	0	120
	その他雑収益	67,492	2,320,317	△ 2,252,825
	サービス活動外収益計 (4)	1,061,182	3,574,618	△ 2,513,436
	その他のサービス活動外費用	986,750	3,549,750	△ 2,563,000
	利用者等外給食費	986,750	1,249,750	△ 263,000
雑損失	0	2,300,000	△ 2,300,000	
雑費	0	2,300,000	△ 2,300,000	
サービス活動外費用計 (5)	986,750	3,549,750	△ 2,563,000	
サービス活動外増減差額 (6) = (4) - (5)	74,432	24,868	49,564	
経常増減差額 (7) = (3) + (6)	8,224,291	2,467,426	5,756,865	
特別増減の部	施設整備等補助金収益	0	246,400	△ 246,400
	施設整備等補助金収益	0	246,400	△ 246,400
	特別収益計 (8)	0	246,400	△ 246,400
	固定資産売却損・処分損	43,956	1	43,955
	器具及び備品売却損・処分損	0	1	1
	ソフトウェア売却損・処分損	43,956	0	43,956
	国庫補助金等特別積立金積立額	0	246,400	△ 246,400
	事業区分間繰入金費用	3,990,000	3,990,000	0
	拠点区分間繰入金費用	0	438,943	△ 438,943
	特別費用計 (9)	4,033,956	4,675,344	△ 641,388
特別増減差額 (10) = (8) - (9)	△ 4,033,956	△ 4,428,944	394,988	
予備費	0	0	0	
税引前当期活動増減差額 (11) = (7) + (10)	4,190,335	1,961,518	6,151,853	
法人税、住民税及び事業税 (12)	0	0	0	
過年度法人税等 (13)	0	0	0	
法人税等調整額 (14)	0	0	0	
過年度法人税等調整額 (15)	0	0	0	
当期活動増減差額 (16) = (11) - (12) - (13) - (14) - (15)	4,190,335	1,961,518	6,151,853	
前期繰越活動増減差額 (17)	50,021,916	50,456,434	△ 434,518	
当期末繰越活動増減差額 (18) = (16) + (17)	54,212,251	48,494,916	5,717,335	
基本金取崩額 (19)	0	0	0	
その他の積立金取崩額 (20)	2,450,000	1,527,000	923,000	
介護施設積立金取崩額	2,450,000	1,527,000	923,000	
備品等購入積立金取崩額	2,450,000	0	2,450,000	
修繕積立金取崩額 (C P)	0	1,527,000	△ 1,527,000	
その他の積立金積立額 (21)	3,000,000	0	3,000,000	
介護施設積立金積立額	3,000,000	0	3,000,000	
備品等購入積立金積立額	3,000,000	0	3,000,000	

(単位：円)

	勘 定 科 目	当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A) - (B)
繰越活動増減差額の部	次期繰越活動増減差額 (22) = (18) + (19) + (20) - (21)	53,662,251	50,021,916	3,640,335

## 介護保険施設 原宿地域ケアセンター 拠点区分 貸借対照表

第三号第四様式

令和4年3月31日現在

(単位：円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当 度	前 年 末	増 減		当 度	前 年 末	増 減
流動資産	65,362,018	62,779,347	2,582,671	流動負債	15,386,268	15,723,830	△ 337,562
現金預金	43,788,387	38,877,576	4,910,811	短期運営資金借入金	0	0	0
事業未収金	20,418,013	23,074,328	△ 2,656,315	事業未払金	11,641,068	10,303,712	1,337,356
未収金	326,983	118,550	208,433	その他の未払金	0	0	0
未収補助金	188,612	3,295	185,317	1年以内返済予定リース債務	0	0	0
未収収益	0	0	0	未払費用	0	0	0
貯蔵品	0	0	0	預り金	0	0	0
医薬品	0	0	0	職員預り金	0	65,118	△ 65,118
診療・療養費等材料	0	0	0	前受金	0	0	0
給食用材料	0	0	0	前受収益	0	0	0
商品・製品	0	0	0	仮受金	0	0	0
立替金	0	0	0	未払法人税等	0	0	0
前払金	0	0	0	未払消費税等	98,200	1,208,000	△ 1,109,800
前払費用	551,388	552,168	△ 780	賞与引当金	3,647,000	4,147,000	△ 500,000
短期貸付金	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
事業区分間貸付金	88,635	153,430	△ 64,795	固定負債	8,729,824	9,482,274	△ 752,450
仮払金	0	0	0	設備資金借入金	0	0	0
その他の流動資産	0	0	0	長期運営資金借入金	0	0	0
△徴収不能引当金	0	0	0	リース債務	0	0	0
固定資産	26,616,043	26,139,539	476,504	退職給付引当金	8,729,824	9,482,274	△ 752,450
基本財産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
土地	0	0	0	負債の部合計	24,116,092	25,206,104	△ 1,090,012
建物	0	0	0	純 資 産 の 部			
定期預金	0	0	0	基本金	0	0	0
投資有価証券	0	0	0	国庫補助金等特別積立金	184,678	225,826	△ 41,148
その他の固定資産	26,616,043	26,139,539	476,504	その他の積立金	14,015,040	13,465,040	550,000
土地	0	0	0	介護施設積立金	14,015,040	13,465,040	550,000
建物	156,249	227,706	△ 71,457	次期繰越活動増減差額	53,662,251	50,021,916	3,640,335
構築物	0	0	0	(うち当期活動増減差額)	4,190,335	1,961,518	6,151,853
機械及び装置	155,926	245,026	△ 89,100				
車輛運搬具	7	7	0				
器具及び備品	704,646	1,628,686	△ 924,040				
建設仮勘定	0	0	0				
有形リース資産	0	0	0				
権利	0	0	0				
ソフトウェア	2,551,261	787,710	1,763,551				
無形リース資産	0	0	0				
長期貸付金	0	0	0				
退職給付引当資産	8,729,824	9,482,274	△ 752,450				
介護施設繰越積立資産	14,015,040	13,465,040	550,000				
差入保証金	216,000	216,000	0				
長期前払費用	0	0	0				
その他の固定資産	87,090	87,090	0				
資産の部合計	91,978,061	88,918,886	3,059,175	純資産の部合計	67,861,969	63,712,782	4,149,187
				負債及び純資産の部合計	91,978,061	88,918,886	3,059,175



## 福祉に関する 相談窓口

直接ケアプラザにおこしいただくか、  
電話での相談もお受けします。

**Tel.045-854-2293**

閉館時は特別養護老人ホーム太陽の園に  
転送されることになっています。



●月曜日から土曜日 9:00~21:00  
●日曜日・祭日 9:00~17:00



●第3月曜日(館内点検日)  
●年末年始(12/29~1/3)

○通所介護事業所番号 1471000123  
○介護予防・高齢生活支援総合事業(横浜市通所介護利用サービス)  
○障害介護支援事業所番号 1471000123  
○介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント事業所番号 1401040997

### 個人情報保護に関する考え(取り組み)

- 私たちは、相談の開始時期の利用者及びその家族に関する個人情報について、第三者に漏らすことはありません。
- 私たちは、あらかじめ利用者の同意を得た上で、利用者サービスを提供する事業者との連絡調整など必要な範囲内において、利用者の個人情報を利用することとします。



※入口は道路直線1階です(障害住宅1階)

### ●JR各駅よりバスをご利用の場合

戸塚駅 西口	○横浜公園・横浜東大前行	徒歩2分	横浜市原宿地域ケアプラザ
	○ドリームハイツ行	徒歩8分	
	○横浜医療センター行	徒歩8分	
大船駅 西口	○横浜公園・横浜東大前行	徒歩7分	原宿四つ角
	○ドリームハイツ行	徒歩7分	
	○立場ターミナル行	徒歩7分	
藤沢駅 北口	○戸塚バスセンター	徒歩1分	聖母の園前
	○横浜公園・横浜東大前行	徒歩1分	
	○ドリームハイツ行	徒歩1分	
大船駅 西口	○藤沢駅北口行 (原宿・公文経由)	徒歩2分	

## 横浜市原宿地域ケアプラザ

〒245-0063 横浜市戸塚区原宿4丁目36番1号(1階)  
Tel.045-854-2291(代) Fax.045-854-2299  
http://www.harajyuku-cp.jp

◎MEMO



## 横浜市原宿地域ケアプラザ

ひとびとのあいに ひとびとのなかに よろこびを...

住みなれた街で 安心して暮らせるよう  
在宅生活を支援します

### 通所介護事業

- 通所介護
- 介護予防・日常生活支援総合事業

介護保険で、要支援・要介護と認定された方などに  
遊遊、食事、入浴、機能訓練などの  
サービスを提供します。

### 生活支援体制整備事業

住み慣れた地域で  
暮らし続けられるように  
高齢者の生活支援・  
介護予防の体制整備を  
地域の皆様とともに進めます。

### 居宅介護支援事業

家族や地域の関係者・関係機関と  
連絡調整をとりながら、  
要介護・要支援認定を受けた方々が、  
地域でその人らしく、自立した  
生活を送れるようケアプラン  
(居宅サービス計画書)を  
作成します。

### 地域包括支援センター

高齢者の方々が住み慣れた地域で  
生活を続けていくために、必要に応じて  
介護保険やその他のサービスを上手に  
利用していくことができるように、  
社会福祉士・保健師・主任ケアマネー  
ジャーなど専門スタッフが、  
総合的な相談や権利擁護など、  
様々な支援を行います。

### 地域活動 交流事業

子ども高齢者も障害のある人もともに  
この地域でよりよく生きることができる  
まちづくりの支援を地域の皆様と  
ともに進めます。

福祉保健活動団体の  
会場の貸し出し、  
※イス等の貸し出し等。

また、「要支援」になるおそれのある方  
から「要支援1~2」の方まで介護予防の  
ケアプランの作成やアドバイスを  
行います。

担当  
地区  
原宿1丁目~6丁目・  
東横野町・小倉町・  
影取町・渡沢町2~37  
茶谷町の一部



★福祉・保健等に関する相談や当プラザの見学等、お気軽にお問い合わせ下さい。